平成30年２月定例会　経済委員会（付託）
平成30年２月27日（火）
〔委員会の概要　商工労働観光部関係〕

岩佐委員長
休憩前に引き続き，委員会を開きます。（10時39分）
これより，商工労働観光部関係の審査を行います。
商工労働観光部関係の付託議案については，さきの委員会において，説明を聴取したところでありますが，この際，理事者側から追加提出議案について説明願うとともに，報告事項があれば，これを受けることにいたします。

【追加提出議案】（資料①）
議案第75号　平成29年度徳島県一般会計補正予算（第６号）
議案第78号　平成29年度徳島県都市用水水源費負担金特別会計補正予算（第１号）
議案第80号　平成29年度徳島県中小企業・雇用対策事業特別会計補正予算（第２号）
議案第81号　平成29年度徳島県中小企業近代化資金貸付金特別会計補正予算（第１号）

【報告事項】
○　にし阿波～剣山・吉野川観光圏整備計画（案）について（資料②）
○　とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバル開催結果について（資料③）

朝日商工労働観光部長
今定例会に，追加提出しております案件につきまして，御説明させていただきます。
お手元の経済委員会説明資料（その３）に基づき，御説明させていただきます。
１ページをお開きください。
一般会計・特別会計予算に係る補正案件でございます。
商工労働観光部の平成29年度一般会計につきましては，左から３列目，補正額の最下段に記載のとおり，２億1,784万6,000円の減額をお願いしており，補正後の予算額は719億4,959万円となっております。
２ページをお開きください。特別会計でございます。
中小企業・雇用対策事業特別会計など４会計の合計で，補正額の最下段に記載のとおり2,410万3,000円の増額をお願いしており，補正後の予算額は1,302億8,801万1,000円となっております。
３ページを御覧ください。課別主要事項説明でございます。
主な事項につきまして，御説明させていただきます。
まず，商工政策課でございます。
２段目の商業振興費の摘要欄①小規模事業振興費におきまして，商工団体の事業費実績見込みに伴い381万9,000円の減額を行うものでございます。
商工政策課の一般会計補正予算の合計は，最下段に記載のとおり2,354万5,000円の減額をお願いしております。

５ページをお開きください。企業支援課でございます。

４段目の中小企業指導費の摘要欄①中小企業総合支援費におきまして，情報支援事業に要する経費等の補正として，395万2,000円の減額を行うものでございます。

６ページをお開きください。

企業支援課の一般会計補正予算の合計は，最下段に記載のとおり1,026万3,000円の減額をお願いしております。

７ページを御覧ください。特別会計でございます。

２段目の中小企業・雇用対策事業特別会計の摘要欄③中小企業金融円滑化推進費におきまして，中小企業向け融資制度の信用保証料を一部補助する事業における事業実績の見込みに伴い，2,100万円の増額を行うものでございます。

企業支援課の特別会計補正予算の合計は，最下段に記載のとおり2,073万2,000円の増額をお願いしております。

８ページをお開きください。

新未来産業課・工業技術センターでございます。

最下段の工業技術センター費におきまして，国等の公募提案型事業や受託研究費などの事業費確定に伴う補正として，3,914万円の減額を行うものでございます。

９ページでございます。新未来産業課・工業技術センターの一般会計補正予算の合計は，中ほど，合計欄に記載のとおり，1,536万3,000円の減額をお願いしております。

10ページでございます。労働雇用戦略課でございます。

下から２段目の雇用促進費の摘要欄②中高年齢失業者等雇用促進費におきまして，職場適応訓練補助事業の事業実績見込みに伴い，3,616万3,000円の減額を行うものでございます。

労働雇用戦略課の一般会計補正予算の合計は，最下段に記載のとおり4,895万7,000円の減額をお願いしております。

11ページを御覧ください。特別会計でございます。

中小企業・雇用対策事業特別会計の摘要欄①中小企業・雇用対策推進費におきまして，障がい者雇用促進費における事業実績の見込みに伴い，100万円の減額を行うものでございます。

12ページをお開きください。産業人材育成センターでございます。

２段目の職業訓練総務費の摘要欄④国庫返納金におきまして，地域創生人材育成事業の事業費確定に伴い，残額を国に返還するため4,357万8,000円の増額を行うものでございます。

また，下から２段目の転職職業訓練費の摘要欄①転職訓練費におきまして，民間を活用した委託訓練などの事業実績見込みに伴い，１億5,115万1,000円の減額を行うものでございます。

産業人材育成センターの一般会計補正予算の合計は，最下段に記載のとおり１億2,192万7,000円の減額をお願いしております。

13ページに参りまして，観光政策課でございます。

下から２段目の観光費の摘要欄③観光とくしま促進費におきまして，事業実績の見込みに伴い，1,200万円の減額を行うものでございます。

観光政策課の一般会計補正予算の合計といたしましては，最下段に記載のとおり，222万6,000円の増額をお願いしております。

14ページをお開きください。国際課でございます。

２段目の国際交流費の摘要欄①国際交流費におきまして，事業実績の見込みに伴い，1,087万7,000円の減額を行うものでございます。

15ページに参りまして，国際課の一般会計補正予算の合計は，最下段に記載のとおり1,029万円の減額をお願いしております。

16ページをお開きください。にぎわいづくり課でございます。

２段目の観光費の摘要欄③観光施設管理運営費及び３段目の子ども科学館費におきまして，あすたむらんど徳島の管理運営に要する経費として，合計536万5,000円の増額を行うものでございます。

にぎわいづくり課の一般会計補正予算の合計は，最下段に記載のとおり，1,027万3,000円の増額をお願いしております。

17ページでございます。

繰越明許費でございます。

にぎわいづくり課の観光施設管理運営費におきまして，渦の道とあすたむらんど徳島の改修工事で，年度内執行に努めてきたところでありますが，設計等に関する諸条件により，完了予定が次年度になりますことから，合計で１億2,300万5,000円の繰越しをお願いしております。

各事業につきましては，引き続き，早期の事業完了に向け，全力を挙げてまいりますので，御理解を賜りますよう，お願い申し上げます。

以上が，２月定例会に追加提出しております商工労働観光部関係の案件でございます。

御審議のほど，よろしくお願い申し上げます。

２点，御報告させていただきます。

お手元の資料１を御覧ください。

にし阿波～剣山・吉野川観光圏整備計画（案）についてであります。

にし阿波～剣山・吉野川観光圏では，西部総合県民局が中心となり，地元２市２町が共同し，平成20年度より，計画期間を５か年とする観光圏整備計画を順次策定し，国の認定のもと，国の支援を得ながら効果的な事業を進めているところであります。

平成25年度より開始しております第２期の現行計画が，今年度最終年度を迎えることから，西部総合県民局等において，次なる第３期の計画策定を進めてまいったところでありますが，この度，その概要がまとまりましたので，御報告申し上げます。

新たな整備計画では，４，地域ビジョンに掲げた５年後の姿を見据え，５，基本戦略に記載のとおり，（１）ＤＭＯ「そらの郷」を中心に地域一体となった取組として，世界水準ＤＭＯの育成，地域住民による主体的な参画促進，裏面，２ページに移りまして，（２）世界水準の受入環境整備として，外国人目線での受入れ環境等の充実，大歩危・祖谷地区に続く，新たな滞在・交流エリアの創出，（３）世界に向けた戦略的な情報発信として，にし阿波インバウンド戦略の深化・展開，Ｉｙａ　Ｖａｌｌｅｙブランドの更なる向上と波及，にし阿波物産のブランド化，（４）広域周遊観光への対応強化として，訪日外国人目線での広域連携による誘客などに取り組むこととしております。

６，新たな数値目標の設定については，今後，これまでの実績や関係事業者等の意見を踏まえ，延べ宿泊者数などの数値目標を設定することとしております。

７，今後のスケジュールでございますが，３月中旬に整備計画を国に提出し，４月上旬の観光圏認定に向け，しっかり事務を進めてまいりたいと考えております。

続きまして，お手元の資料２を御覧ください。

とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバル開催結果についてでございます。

まず，１，開催期間でございますが，去る２月９日金曜日から18日日曜日までの10日間，徳島市内の４エリアで開催し，県内外，国外から多くの皆様に御来場いただきました。

２，内容等でございますが，（１）シンボルアート作品の展示に記載の各エリアに，それぞれシンボルアート作品を展示するとともに，（２）主なイベント等として，竹とＬＥＤを組み合わせた灯籠の制作，ＬＥＤを使った光のオブジェの制作などのワークショップをはじめ，高校生によるプロジェクションマッピング，変幻自在デジタル襖からくりなどのイベントを実施し，御来場の皆様にお楽しみいただいたところであります。

３，来場者数等でございますが，来場者数について，前回と同様に，観光庁の観光入込客統計に関する共通基準に基づき推計した結果，平年より気温が低く雪や風の強い日が続くなど，天候に恵まれない中，前回の約32万人を上回る約35万人と多くの方に御来場いただきました。

また，来場者数に占める県外客，国外客の割合については，各エリアでの来場者へのアンケート調査から推計した結果，期間中，香港からのチャーター便就航，第九演奏会の開催に加え，積極的な広報により14.7％となりました。

今後，御来場された方々など多くの皆様から頂いた御意見を踏まえ，実行委員会において，今回のフェスティバルの成果や課題をしっかりと検証してまいります。

報告については以上でございます。よろしくお願いいたします。

岩佐委員長

以上で，説明等は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは質疑をどうぞ。

岩丸委員

ただいま報告がございました，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの開催結果について，若干お伺いしたいと思います。

これは11月議会でもいろいろ議論があったときに，私からも質問させていただきましたし，今回の本会議でも，何人かの議員から意見も出ておりました。そんなことで今日，こういう結果についての御報告を頂いたということでございます。まずは，この開催期間なんですが，２月９日から18日の10日間につきまして，報告の中にもございました，特に年間を通じて一番寒い時期でなかろうかなと思います。それから雪もあったりということで，若干少なかったということなんですが，時期の設定としては妥当だったとお考えでしょうか。

黄田観光政策課長
　とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの開催時期の設定の関係での御質問を頂いております。
　今回につきましては，冬の観光イベントといたしまして，県外や国外から誘客が見込めるという形で，特に２月14日のバレンタインデーでありますとか，春節が今年は２月16日からでございましたけれど，そのあたりを考慮いたしまして，この時期に開催することとしたところでございます。
　委員からお話がありましたように，この期間，今年につきましては，平均気温でも約２度，それから最低気温でも平年に比べたら２度ほど低く，また天候につきましても来場者が見込めます休日が５日間ございましたけれど，そこを見ましても最終日の２月18日以外は，雨や雪，非常に強風で天候にも恵まれなかったところでございますけれど，前回を上回る多くの方に御来場いただいたところでございます。

岩丸委員
　特に春節とか，これは香港とかそちらの便宜も兼ねてのことだろうと思うのですが，本当に寒い時期で，その上に今年の２月10日からオリンピックで，このオープンした９日は，開会式が確か10日で，その前の日のジャンプがもう始まっていました。一番盛り上がった時期に当たってしまって，特に今年は日本選手団が活躍したということもあって，非常に厳しい時期を選んだのかなと思います。これから徐々に梅や桜が咲いたりする時期のほうが，いっそ良かったんじゃないかと思うんですけれど，これって仕方なかったんでしょうかね。

黄田観光政策課長
　時期の設定につきましては，今，委員からお話がありましたように，特に今回県が主催にも加わるという形で，県の持つ強みを生かしまして県外，国外からの誘客を図っていきたいという形で広報にも努めたところでございまして，春節等を考慮いたしましてこの時期で設定をさせていただいたところでございます。

岩丸委員
　それがいいのかよく分からないのですが，この来場者ということで，これは35万人という推計でございますが，これについてはもうちょっと詳しく，どのように調べたのか。イメージとしてはここに書いてある，観光庁の観光入込客統計に関する共通基準に基づき推計ということですが，バードウォッチングでないけれど，カチカチと数えるんではないんかなとは思うんですが，確かに数を数えるのは難しいんだろうと思うんですが，もうちょっと詳しく聞かせていただけますか。

黄田観光政策課長
　来場者数についての御質問でございます。
　今回につきましては，前回と同様に観光庁の観光入込客統計に関する共通基準に基づきまして，推計したところでございます。

具体的には，実際にシンボルアート作品でありますとか，ワークショップなどの関連イベント，それから常設展示を行っております全体のエリアで，共通基準では観光地点面積と言われているんですけれど，実際にはイベントをやっている全体のエリアを設定しまして，そこで実際の来場者数を数えればいいんですが，なかなか数えられませんので，その中で実際には数える一定範囲のエリアを絞りまして，そこで実際に来場された方をカウントするということを行っております。

そのカウントにつきましても共通基準では，最盛時間に移動しながら来場者を数えるということになっておりますので，最もにぎわっている時間に何人来られているか，実際の数を数えます。今回につきましては，時間を設定いたしまして，１時間おきぐらいに，その時間帯で何人ぐらいいるかというのを，そのエリアの集計をいたしまして，その中で最盛時ということで，一番多い人数が来られているところを設定いたします。

それから実際にその会場に来場する頻度と言いますか，入れ替わりがありますので，実際に集計した人数に，何回ぐらい入れ替えたかという回転数を掛けます。それから全体の観光地点面積と，実際に調査したエリアの差がありますので，その倍数を掛け合わせて推計するというのが共通基準の考えでございます。これに基づきまして前回も推計していますので，今回もこの方法により推計をしたところでございます。

岩丸委員

分かりました。例えば，藍場浜公園でも城山でもいいけれど，藍場浜公園の中で一定エリアがどれくらいの大きさかというのもあるんですが，何分くらい計ったのか分からないですけれど，それで一番多かった人数掛ける回転数掛ける面積ですか。確かに多くなるような気がしますね。

結局，その基準で出す目標値が40万人に対して35万人だったということですが，何か実数と大分かい離があるのではないのかと思います。本来の意味で何人かというのは，入場券でも配っていれば別でしょうけれど，非常に難しいと思うんですが，資料２の下に県外客とか国外客の割合が14.7％，各エリアでの来場者へのアンケート調査から推計してとありますが，アンケートで，ちょっとどんな意見があったのか，お聞きしようと思っていたのですけれども，何件くらいアンケートって回収できているのですか。

黄田観光政策課長

今回の来場者数に占める県外客，国外客の割合につきましては，それぞれのシンボルアート作品を展示いたしておりました４エリアにおきまして，実際に調査員がアンケート調査を行ったところでございまして，これは聞き取り等によるところでございます。

全体では，約2,000枚の回収をしまして，そこで県外と国外という割合を出しますと14.7％という結果になったところでございます。

岩丸委員

14.7％というとすごい数やね。ちょっと暗算ですぐにできないのだけれど，１割で3万5,000人ぐらい。５万人ぐらい来てくれていたのかという感じがあるのですが，いずれにしても，数にはこだわったらいけないと思うのですが，市内のホテルや宿泊施設とか周

辺の飲食店とか当然駐車場とかバスも来るし，レンタサイクルも貸し出されているし，大体のことは分かると思いますが，特にホテルとか飲食店とかの状況ってどうだったか，これは把握されていますか。

黄田観光政策課長
　宿泊施設，飲食店の状況でございます。
　宿泊施設につきましては，市内の宿泊施設を中心に聞き取り調査を行ったところ，期間中の主に休日につきましては，ほぼ満室である所とか，全体で稼働率が85％強という施設もかなりありまして，閑散期の宿泊数の増につながったものではないかと考えております。
　飲食店につきましては，具体的な調査はこれからということになりますけど，今回，徳島の食ということで，ＪＲホテルクレメント徳島と東急ＲＥＩホテルにおきまして，キャンペーンをこの期間に行っていただいていたところでございまして，具体的な数値等は確認できておりません。
　もう１点，万代倉庫のエリアのところでは，周辺のカフェ等もございまして，そこを中心に多くの方でにぎわっていたというふうな状況でございます。

岩丸委員
　満室とか稼働率85％だからすごいですけれど，そうだったのか。非常に分からないところもありますが，さっきアンケート調査ということもありましたけれども，どんな意見がございましたか。まあ良い意見と悪い意見もあったと思うのですが主だったものを挙げていただけたらと思います。

黄田観光政策課長
　アンケート調査の関係でございます。
　詳細については取りまとめをしているところでございますが，主な意見という形で何点か御紹介させていただきますと，開催の時期については，この寒い時期に開催してくれてうれしいという意見があった反面，もう少し暖かい時期等に開催したほうがよいのではないかという御意見も多数ございました。
　また開催のエリアにつきましては，見る場所がたくさんあって良かったという意見のあった反面，例えば今回四つのエリアだったんですけど，駅前にも広げてほしいというような御意見とか，会場をコンパクトにして歩いて回れるようにまとめるようにという御意見もございました。
　また作品とかワークショップなどにつきましては，今回は異次元，異空間にいるみたいな体験ができたとか，子供さんと一緒に回れて楽しかったという意見がある反面，もう少しスマートフォンやタブレットで参加できるような作品を増やしてほしいとか，また昼に行うイベントが少なかったので，そこを増やしてほしいというような御意見もございました。
　また，広報の関係につきましては，やっぱり告知不足ということをかなりの方が言われていたのと，県内でもローカル番組等でもっと宣伝してほしいでありますとか，運営面で

会場の案内が分かりづらかったというふうな御意見等も頂いております。
　こういう様々な御意見頂いておりまして，今後は詳細につきましてとりまとめて十分，分析してまいりたいと考えております。

岩丸委員
　特に参加者の声を聞くのが一番だと思うので，そこらはしっかりと分析をしていただきたいと思います。
　制作したチームラボは，自分が思っていたのに対してどうだったのかというような，今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの成果や評価，関係者はどのようにされておったか，把握されておりますか。

黄田観光政策課長
　期間中にチームラボの関係者とお話をする機会がございまして，その際にお伺いしたところでは，前回と違いまして今回は主催に県が入ったことで，マスコミの対応でありますとか，広報戦略が強化されたっていうことを評価いただく一方で，やはりエリアがちょっと拡大をしたということで，作品の設置でありますとか，運営管理等が大変だったということと，先ほど委員からお話のありました時期の関係でございまして，今回は，雪とか強風など気象条件が厳しかったということで，十分な検討が必要じゃなかったのかというお話も頂いているところでございます。

岩丸委員
　いずれにしても，皆さんが良かったというイベントは，難しいかと思うのですが，やはり県民の税金を使ってやっているイベントなので，一番はやっぱり県のためになったか，県民のためになったのかが，一番じゃなかろうかと思います。
　費用対効果をきっちり図るということは難しいところかも分からないのですけれども，そういったこともしっかりと踏まえて，次年度以降どういうふうにやっていこうか，次年度もまずやるぞという方向で行くのか，その辺を，ちょっと聞かせていただけたらと思います。

黄田観光政策課長
　今回のフェスティバルでの関係でございますけど，まずは御来場いただきました多くの皆様から頂きました御意見を踏まえまして，実行委員会のほうでフェスティバルの成果とか，課題につきまして，まずしっかりと検証してまいりたいと考えております。
　その上で県議会での御論議を踏まえまして，とくしまＬＥＤ・デジタルアート実行委員会，また，とくしまＬＥＤ・デジタルアート推進協議会のほうで十分検討してまいりたいと考えております。

岩丸委員
　なかなか良かったなと言えたらいいんですが，なかなかそこまでいかんのじゃないかなという気もいたしております。いずれにしても，先ほど黄田課長もおっしゃってたんです

が，いろんな意見があると思います。当然アンケートもそうですが，いろんな意見を是非，参考にしていただいて，そういった意見を踏まえて，まずはしっかりと今回のイベントについて検証していただきたい。

また，そういったことについて議会のほうにもしっかりと御説明していただいて，十分御相談も頂きたい。その上で来年度もやるかやらないかまではなかったんですけど，是非そういったことで次年度のことについても，いろんな人の意見を聞きながら，しっかりと進めていただきたい。これが続いて開催できるかどうかまだ分からんとは思うのですが，これも徳島市との関係もあるだろうし，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバル実行委員会が，まずは判断するのかなというふうにも思うんですけれども，そういったことも踏まえて，今後の在り方についてしっかりと議論していただきたいなとお願いしておきます。

岡田委員

とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルを初めにされるときに，春節にしたいと言って提案されていたと思うんですけれども，先ほどだったら暖かい時期にしてほしかったとか，寒かったというようなアンケートもあったという話でして，それだって県やとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバル実行委員会の思わくと，実際皆さんの感想がものすごくずれています。そのあたりは最初から県が意気込みを入れてたのは，その春節での中国，韓国，台湾，香港のお客さんを呼び込むんだっていうのを今回はメーンに出していて，それで40万人の方に来てもらうようにするという，しかもそれを海外にＰＲするために，早めにこの情報を決めていきますよと，今回企画されたと思うんです。

そのあたりが去年と違うところで，県も参加してやります，そもそもがそこであって，先ほど寒かったとか，いろいろ反省点をおっしゃっていたけど，それはもう分かっていてされている話じゃないですか。春節は旧正月なので，１年で一番寒い時期なんですよ。それが分かっていてした話なので，それなら見込みが甘かったということなんですか。

黄田観光政策課長

開催時期につきまして，委員のほうから話がありましたように，今回につきまして県が参画して，特に県外，国外からの誘客を図っていくため，いろいろな県の持つチャンネルを最大限活用して広報を行ってきたところでございます。

時期の設定につきましては，やはり冬のイベントという形で，先ほど御説明させていただきましたけど，バレンタインデーとかでありますとか，春節ということで海外からの誘客が見込める時期の設定はさせていただいたところでございます。

結果としては，目標の40万人には届かなかったところではございますけど，多くの方に御来場いただけたのではないかと考えているところでございます。

岡田委員

目標の人数に届かなかったというよりも，今回の企画として，春節にしたということは間違いじゃないということですね。

黄田観光政策課長
　時期の設定につきましては，間違いであったとまでは言えないんですけど，ただ，広報等につきまして，やはり，誘客に更につながるような広報っていうのは，今後，十分検証していく必要があるかと考えております。

岡田委員
　そしたら，具体的に細かく聞きたいんですけれど，その35万人，最盛時の人数を掛けていったら，それは多くなるという話がありますが，実際にチャーター便が香港から来ましたよね。それで乗ってきた人数は，１便150人ぐらいですよね。それで２回入ってます。チャーター便が入った回数と，徳島県の宿泊施設の中で，稼働率80％から100％のホテルがありましたって話なんやけど，それで全部で何人ですか。

黄田観光政策課長
　今回，まずチャーター便の関係でございますけど，期間中，香港からのチャーター便につきましては，徳島に到着されたのが２月の期間中９日から18日の間でいきますと，２月11日と15日と18日。それから台湾からのチャーター便が，２月９日に到着をされてるところでございます。
　それと，すみません，ホテルや宿泊施設について，先ほど，ほぼ満室の施設が多数あると御説明いたしましたけれど，いろいろ聞き取りをする中で，例年と余り変わってないっていう所も中にはございます。その中でも休日につきましては，ほぼ満室という所が何軒かございまして，稼働率も85％を超える所もございましたので，今回の閑散期の宿泊増にはつながったのではないかなという感じで考えているところでございます。

岡田委員
　チャーター便で何人来たかっていうのは分かっていますよね。その数字とホテルの集計ができないっておかしな話じゃないですか。徳島県にあるホテルの数と，宿泊できる人数っていうのは分かってますよね。だから，それを掛けて大体，数字が出るじゃないですか。土日の最大でもいいし，平均でもいいし，その数量で泊まってた人数が，何で把握できずに今の答えが出てきたんですか。
　先ほどの説明してくださった中で，ものすごく，にぎわってましたよという良い表現をされてますけど，実際，私，何回か行かせてもらって，17日に阿波おどり会館にアメリカから来たお客さんを連れて行ったときにも，誰も東新町の辺りを通っていない。その日，強風で藍場浜公園のシンボルアートが多分止まっていたと思うんですけど，そういう情報発信とかってどのようにしてたのかっていうのも一つあるし，行こうと思ってる人たちに対しての情報発信が非常に悪いって思うところもあるんです。それ以前に人が通っていなかったのに35万人っていう数字っていうのは，最大ピークのときに行ってないので何とも言えませんけど，17日の午後９時時点で，私が阿波おどり会館から東新町を通って，富田町のほうにずっと歩いて移動したんですけど，人にすれ違わなかったんです。それでいくなら，少なくとも1,000人や2,000人もおいでていたら，もう少しにぎわいがあり，人の声が聞こえてきて当然やと思うんですけど，藍場浜公園が休みだったっていう話なんで，そ

れはそうなのかと思うんですけれど，その言われてる数字と実感してる数字が，ものすごくギャップがあって，違和感があります。先ほど言っていた第九演奏会の人数も，１万人も２万人も来ていませんよね。だから，その35万人の数になっていく根拠が全然示されてないのに，観光庁のデータですよっておっしゃるけど，それはそれでいいんですよ。

でも実際，実態や実感として徳島県はどうやって感じてるのかという細かいことを聞きたいなと思って，今，説明してくれた数字を根拠として何人っていうカウントしてるんだっていうところを，掘り下げて聞いているのですけれど，それを答弁してもらえんかったらそれは空論ですよね。いかがなんですか。

戸川国際課長

ＬＥＤ期間中のチャーター便でお越しくださった人数というところにつきまして答弁させていただきますと，２月11日151名，２月15日147名，２月18日147名，それから台湾便につきましては178名ということになっております。

ただし，今回のチャーター便は，関西空港等から入ったお客さんが徳島からアウトするという場合も含まれますので，アウトバウンドのお客さんが前日に徳島に泊まって，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルを見て帰られるというツアー設定もなされていましたので，そういった数もプラスにはなってくると思います。

もう一つ，今回のチャーター便は，ＥＧＬツアーズが主催しておりますけども，コース設定が，全てが徳島でまず一泊目泊まるという設定がないツアーもございまして，最終日に泊まるというケースもございますので，全てのお客様が期間中に，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルを見たかどうかというのは，正確な数字というのは把握できていないということでございます。

黄田観光政策課長

宿泊施設数の関係でございます。

市内という形でも数字は手元に持ってないんですけど，県内のホテル，旅館数等でございますけれど，ホテルのほうが手元に持ってる数字では，約41施設で客室数が3,000人強。旅館が560施設で7,200人強でございますので，大体，ホテルと旅館合わせまして客室数につきましては，１万300人ぐらいというところでございます。

岡田委員

ありがとうございます。それが県内っていう話なので，先ほど聞いてくれたホテルの人たちが，そこのホテルで何人泊まってたっていう数字は出せないんですね。

黄田観光政策課長

先ほどの聞き取り分では，具体的に何人泊まってたかっていうところまで，ちょっと現在把握しておりません。

岡田委員

人数が問題になるというか何人分を売り出して，何人来たかという数字で言われてて，

その飛行機のチャーター便については，そのパッケージを作って入り込みしてるっていうツアーもあれば，いろいろあるよというお話だったのですが，チャーター便の全員が見てくれたとして，ただ行ったり来たりで両方で大体700人掛ける２で1,400人弱ぐらいの人ですよね。

それと後，阿波おどり会館に行ったときには，その午後８時からの公演はもう満席だったんです。ものすごくにぎわってて，それこそおっしゃるように，春節なのでアジアの方もいらっしゃっていて，でもその方たちが午後９時に終わったので，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルにずっと回っていってくれるのかなと思ったら，みんなバスに乗って違う所に行ったと思うというか，次の宿泊施設に行ったように思うんです。

結局，何が言いたいかっていうと，その35万人とおっしゃるけど，その根拠になる数字のもう少し緻密なところの計算ができていないというのを指摘させてもらいたいのと，何人が徳島県内に入って盛り上げがどうだったのかという実感が全然出てきてないと思うんですね。そしてそれの根拠となる計算というのもされてない，把握してないという先ほどの課長の答弁だったし，もともと徳島県にインバウンドで，外国から一人でも多くの人に泊まってもらおうという冬のイベントっていうのでされてたところでいくと，その数字こそ読むべき数字であって，その数字を積み重ねていくことによって徳島の冬のにぎわいが起こる話だと思います。

だから大きな仕掛けがあるから来てくれるのじゃなくて，小さな積み重ねをカウントしていって，そこの満足度を上げていかなかったら，いくら大きいイベントを打ったところで，そこでホテルに泊まったけど，もうやっぱり寒かったから行かなかったということにならないように，来てくれる人の数の数え方を間違えていると思うんですけど，そのあたりはどのように認識されていますか。

黄田観光政策課長

今回の来場者数につきましては，先ほどから御説明させていただいております，前回と同様の方法で，観光庁の観光入込客統計に関する共通基準に基づきまして推計をさせていただいています。

一方で委員からお話がありましたように，県外や国外からの誘客を進める上で，どういう形で多くの方に来ていただけるかというあたりの緻密な計算といいますか，手法等を考えるべきところにつきましては，正に委員からのお話のとおりでございまして，一応今回につきましても広報は，国外，特にインバウンドの重点地域であります香港や台湾におきまして，いろいろな旅行会社のＰＲでありますとか，ホームページの特設ページ開設でありますとか，雑誌への広告等を行うと，いろんなことをやったところでございますけれど，実際にそのあたり誘客に本当につながっているかどうかにつきましては，今後，時期の設定に関してのいろいろな御意見や，実際に御来場された方の御意見等を踏まえまして十分検証してまいりたいと考えております。

岡田委員

今の説明を聞いていると，そもそも春節にしてインバウンドに力を入れる設定が間違っていたという話を認めるようになるんですか。そうではないでしょう。

結局，インバウンドに向けて冬のにぎわいがないから，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルを冬に持ってきて徳島の冬を楽しんでもらいたい。寒いけれど徳島の冬を彩るものにしたいいうのがこのとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルだったと思うんです。それでインバウンドの目的は経済効果を期待するっていうところなので，やはり宿泊施設であったり，宿泊者が御飯を食べる所であったりの経済への還元もなければ，県が税金を使って県内にお金を落としてくれる仕組みを作っていなければ，県が税金を使ってにぎわいをつくる意味があるかってところに疑問を感じるんです。

冬に寒いところでもとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルがあって，ぬくもりがあるようなイベントがあるよっていうので，こぞって来てもらえるのが多分，所期の目的であったと思うんです。今年は寒かったというのも非常に誤算だったところもあるのですけれども，にぎわいづくりの部分で，やはり先ほどのホテルの宿泊者数をカウントしていないとか，県内の経済波及効果っていう部分の計算の仕方っていうところまで落とし込んでいってもらわないと，全然税金を使っている意味がないと思うし，投入されているところで県民にどんな還元があるのかというのが，やっぱり税金を使う意義だと思いますので，それを絶対忘れてはいけないし，そうでないならそんなイベントする必要はありません。

県民がオリンピックを見るより，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルに行くと選択してもらえるような広報や案内，その説明環境も作っていかなかったら。

案内も案内看板があったけれど真っ暗の中で，どこでやっているのか分からないという状態です。今回の４か所のイベントって，道から見えないんです。藍場浜公園にしたって周りに木があるし，城山公園の中は当然見えないし，県庁のほうでも，木があるので国道55号から見えないんですね。万代町では敷地内でやられているし。平成28年12月の時は新町川の中にあったから，みんなが見えていたんですよ。それで，何やっているか分からないけど面白そうだ，人が集まってるというので，集客できていた部分もあるんですよ。でも今回は残念なことにその４か所が，ばらばらすぎるのと施設が大きすぎて，外から見えんかったというのがあって，やっている期間中のＰＲ効果もなかったと思うんですね。それと寒過ぎたのもありますが。

だから県がするに当たって，そのあたりのちゃんとした数字のカウントの仕方，それじゃあ県内の企業や施設への観光集客ならば，観光関係としての還元を数えずするイベントではないと思うのですけれども，それはいかがですか。そのホテルの宿泊者数が分からないという話では，もう全然問題にならないんですけれども。

黄田観光政策課長

今回のフェスティバルにつきまして，やはり県外，国外から特に来ていただくように県も積極的な広報をやってきたところでございます。

それによって県外，国外から来ていただけましたら，委員からお話がありましたように宿泊数にもつながるという形で取組をしてきたところでございます。

一方で，事前の告知や広報等が十分であったかどうか，委員からお話がありましたように，前回と比べまして，作品やイベントの関係も異なっているところでございます。

その実際の関連イベントの内容でありますとかワークショップ等々につきまして，それ

が集客にどのようにつながっていったのかというあたりを，アンケート調査でいろいろ御意見を頂いているところでございますので，しっかり分析して課題等について検証してまいりたいと考えております。

岡田委員

しっかり検討していただくというか，知らなければいけない数字をちゃんと計算できるような仕組みを作ってください。

でないと宿泊者数であったり来場者数であったり，お土産屋さんに来た数とか，結局その県内企業に波及効果があるという実証がないと説明できませんので，そのあたりの調査する方法を是非調べてほしいと思います。

そのあたりの数をカウントしていくというのが絶対必要だと思うし，それがないと35万人を本当に根拠付けるものが何にもないし，最盛時のエリアごとの数掛ける回転数掛ける場所の数という話でしたよね。だから先ほどの計算の中で思ったけど，今回，会場がたくさんあるからものすごい数になるよね。でもそうじゃないでしょ，実際にもっと地に足をつけたカウントの仕方がなく，その人数だけ言われても全然納得できるような数字ではないので，是非取組というかもうちょっと細かいところでお願いしたいと思います。

それともう一つ前回と違うのは，エリア拡大したのでレンタサイクルや，周遊バスを回しますよと言ったのですけれど，それの利用率はどうなんですか。

黄田観光政策課長

前回に比べましてエリアが拡大しておりますので，周遊性を高めるという形でまずバスのほうでございます。

バスにつきましては，平日は中型とマイクロバス２台で運行させていただきまして，休日につきましては中型とマイクロバス４台で，当初は運行しておりましたけど，休日を中心に積み残しがかなり発生したということでございます。平日の２月16日でございますけど，こちらは当初２台体制だったのを４台に増やしまして，後12日と17日と18日の３日間につきましては，４台のうち２台を大型バスに変更して対応したところ，ここでも若干積み残しが出たと聞いておりますけれど，そういう形で多くの方に御利用いただいたところでございます。

あとは，周遊船につきましても運行いたしまして，こちらは随時運行させていただきまして，周遊船につきまして今回気温が低くて悪天候というところもありましたけれど，こちらも多くの方に御利用いただいたところでございます。

レンタサイクルにつきましては，今回，アミコビル地下１階の徳島市広域観光案内ステーションと阿波おどり会館の１階に受付を設けまして対応し，御利用いただいたところでございます。

岡田委員

多くの方に御利用していただいたのは結構なんですが，数値的にはどのように把握されていますか。

黄田観光政策課長
　巡回バスにつきましては，期間中大体5,000人の方にバスを御利用いただいたところでございます。

岡田委員
　自転車はどのぐらいだったのですか。

黄田観光政策課長
　自転車につきましては，前回もちょっと利用が少なかったみたいですけれど，今回につきましては，お聞きしたところ期間中は22台の利用があったと聞いております。

岡田委員
　今回は，広域になるから自転車でも回れますよというのが一つの売りだったと思うんです。それを議論しているときは，６月や７月，９月の暖かい時期だったので，自転車いいなとそのときには思ったんですけれど，実際２月になって，この天気に自転車に乗っていける人，本当に風も強かった期間だったので，やっぱり結果としては22台。それでもまあ利用してくださった方はいらっしゃったけど，逆に必要だったんかなあと思います。それも広報できていないし，レンタサイクルの場所とかバス停だったりっていう告知を，見てくれている人は分かっているんですけれども，当日，真っ暗な中で土地勘のない人がいろんな所を探そうとすると，リスクが高いし寒いからもうええわとなってしまうんですね。
　だからその情報発信ってアンケートにもあった話なんだけど，その夜の設定というところは一つ考えてもらわないといけません。昼間と違って全然見えないという中で案内看板や案内所を探すとか，バス停を探すとかというところに非常に負担が掛かるというか，昼間よりも３倍も４倍も案内する方法を考えるなり，それこそ動線をＬＥＤライトでつけるとか，そういう工夫をしていただかないとそこを見つけるのに多分労力尽きてもう帰ってしまう。小さい子供だったら特にもうええねという話になるし，季節とかアイデアはいいんですけれど，そのあたりの考え方っていうのはやっぱりもうちょっと詰めて細かく考えていかないとあかんと思います。
　それと周遊バスも積み残しがあったら，その時点ではっきり言ってイベント無理でしょう。私だったら積み残されたら文句を絶対言うし，逆にちゃんと待ってくださっていたお客さんたちに感謝するべきだと思います。どちらかというと大型バスで空きが出るという想定のほうが当然やと思うんですけれど，そこのあたりはマイクロバスでという話とか平日と休日で全然想定人数が違っていたけど，休日は大型バスを回すというのが当然の発想だと思うのですけれども，その辺も読みが甘かったんですか。

黄田観光政策課長
　今回につきまして，１点目の会場の関係の案内等が分かりづらいということにつきましては，先ほど御説明いたしましたアンケートの中でもかなりございました。その分につきまして，委員からお話がありましたように，土地勘がある方でしたら大体分かりますけど，確かに県外とか国外の方につきましては，初めて来られたという方もいらっしゃいま

す。その方には確かに分かりづらかったというところは，反省点かと思っております。

また，暗い中での案内表示の照明と言いますか，そのあたりも十分であったかというのも今後の課題で，十分検証していかなければいけないと思っておるところでございます。

それから，巡回バスにつきましては，周遊性ということで今回運行させていただいたところでございます。実際，その大型バスにしたほうが良かったかどうか，確かにおっしゃいましたように，休日につきましては，当初から大型バスを導入して運行していったほうが良かったかなっていうのはございます。そのあたりも含めまして課題として，今後十分検証してまいりたいと考えております。

岡田委員

おもてなしの徳島県なので，積み残しっていうのはおもてなしではないですよね。やっぱりそんなあたりで，徳島ならではの温かみを感じてもらうという話で言われているところもあるので，それなら温かいと思ってもらえるような，過剰にする必要はないんですけど，来た方が最低限気持ち良く感じて帰ってもらえるってことがリピーターになるし，それこそ，来て嫌な思いをされたら徳島の評判がどんどん下がっていくので，そこは一番窓口になって，こういうイベントを仕掛ける上では，一番に考えなあかんところだと思うし，結局このとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルのみならず，全ての観光政策の話だと思うんですね。

だからそこの部分が結局読みが甘いとか，県外から初めてきた人には分かりづらかったと先ほど課長が言ったが，初めて来る人を呼ぼうとして冬のイベントをこんなにお金掛けてやっているんじゃないですか。でもそこでそんな言われ方をすると，逆にそれ違うでしょう，県外の方が徳島に初めて来てもらうように，このとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルを始めたんでしょう。そして外国の人だって，徳島でこんな面白いことしよんじゃって言って，春節に行こうかというんで始めたんでしょう。

ですから土地勘のない人が，居心地が良く徳島をくるくる回れるような仕組みを作るっていうので，自転車や周遊バスっていうのを説明で私は伺ったので，それだったら回れるなと思って聞いておったけど，実際は暗闇の中で案内が分からんかったっていう話なんですね。

この前は自転車で寒かった話があって，今回は徳島を全部楽しんでもらうから４か所にしますっていう一番初めの説明やったと思うんですけど，それが実際は交通上つなぎが悪くて，なかなか行きづらかったという話が出てきているってことは，初めて来た人の印象を上げるためにしているイベントが，印象を下げてしもうたら何も意味がないと思うのです。

だからそこの初めの企画のところで検討しますじゃなくて，甘かったんだったらそれは多分全ての徳島県の観光行政，そこの部分が甘いんですよ。今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの反省というか課題は，今までの徳島県でやってることを見直すきっかけになると思うんで，是非，今後の参考にするというか，これをきっかけにもっと海外や県内の人に発信の仕方とか，県外の人に徳島に来てよっていうための発信の仕方っていうのをもっともっと勉強してもらって，これを糧にして，今つぎ込んでいる税金の分以上に県内の人に還元できるような仕組みづくりを作ってもらわないと，今回本当に

寒かったので寒いイベントになってしまっているような気がするんです。そのあたりが，もともとの読みが甘かったようにしか思えないので，そのあたりはいかがですか。

福田商工労働観光部次長

岡田委員から今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルから，それに伴う観光誘客の基本的な姿勢という観点での御質問を頂いております。

私ども，今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの課題等，これから緻密に，ボランティアガイドで携わってくれた方であるとか，宿泊施設の方，お土産物店の方，いろんな方に地道にお聞きをして，そこで細かな課題を一つ一つ積み重ねて，委員おっしゃる今後の観光誘客について，本県が足らない部分がどこにあるのかというのもそこで積み重ねて，一生懸命これから誘客に努める上の検討材料にしていきたいと考えております。今後とも私ども本県の観光誘客に一生懸命努めてまいりたいと考えておりますので，よろしくお願いいたします。

岡田委員

是非お願いしたいと思います。インバウンド数が再来年の東京オリンピック・パラリンピックのときには，6,000万人とか4,000万人を超えるとか，その数が出ています。そのうちの１割は徳島に来たよって言ってもらうようなインバウンドであったり，県外の方に徳島は，どこにあるんって言われるんじゃなくて，徳島に行きたいと言われるような情報発信の仕方と，徳島の魅力を発信できるような仕掛けづくりというのを丁寧に作ってもらって，そのあたりを実際に来たときには徳島こんなところまでおもてなしをしてくれるんやっていうような実体験をもとに，その方たちが徳島の魅力を頼まなくても発信してもらえるような仕掛けを作っていって，それが口コミで広がっていって，その一番強いネットワークができていくということになるんで，是非そのあたりは研究してもらって前向きにお願いしたいと思います。

平成30年度の予算が付いていた部分で聞きたいところがあったんですけど，藍染めのところで，「藍×ＬＥＤ」ブルーとくしま創生事業っていうのと，もう１か所，「阿波藍」魅力創造発信プロジェクトっていう二つの藍染関係のが，来年度の新規事業として上がってきているんですけれど，この「藍×ＬＥＤ」ブルーとくしま創生事業っていうのは実際に今までにしていたことの継続，発展ですか。

中西新未来産業課長

ただいま，委員から「藍×ＬＥＤ」ブルーとくしま創生事業について御質問いただいております。

これは今年度は藍×ＬＥＤというような形で事業化をしていた部分でございますけども，平成30年度におきましては，ＬＥＤを活用した新提案，製品開発，更には企業の販路開拓などを促進するために，藍×ＬＥＤと言えば徳島というのを世界に向けて発信するというようなことで立ち上げた事業でございます。

事業内容といたしましては，産学官によるコンソーシアムを創設いたしまして開発，発信，販路開拓に関する事業展開をすることによりまして，本県の藍関連産業，ＬＥＤ関連

産業全体の活性化に取り組むような事業でございます。

岡田委員
　藍とＬＥＤの順番が変わった，重きを置くところが変わったってことですか。

中西新未来産業課長
　藍とＬＥＤですけれども，広報としてはこの事業におきましては，まず藍をメーンとして取り組むという意気込みで藍を前に出しております。

岡田委員
　平昌オリンピックも終わって，次は東京オリンピック・パラリンピックですので是非，徳島の阿波藍を広めていってもらうとともに，産業界でも活用してもらうようにお願いできるという取組としては，面白いかなとは思います。
　それじゃあ次の，「阿波藍」魅力創造発信プロジェクトっていうのはいかがですか。

黄田観光政策課長
　「阿波藍」魅力創造発信プロジェクトの関係でございます。
　こちらにつきましては，いわゆる伝統藍という形ですくもを使って，この阿波藍のブランディング化を図っていくという事業でございます。
　委員からお話がありましたように，2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けまして絶好の機会が到来しているということで，この阿波藍を十分発信していく必要があるということを考えておりまして，今年度につきましては，関係者が集まった会議をまず立ち上げたところでございますけど，より本格化していくという形で，このプロジェクトにおきまして，阿波藍のブランド確立を目指すということを主な柱としているところでございます。
　その中で，例えば魅力創造という形で新しい阿波藍の製品の開発，それを販路拡大につなげていくでありますとか，藍の歴史とか文化，それから実際に携わっている方，たくみの方らに会いに来ていただけるような，着地型旅行商品のほうにもつなげていくように産業観光を図っていきたいと考えております。
　またプロモーションにつきましても，そのブランド化を図るとともに，積極的に対外的に発信をしてまいりまして阿波藍を徳島の伝統産業，伝統藍の一つという形で，情報発信していくという取組が主な内容でございます。

岡田委員
　私も本会議でも質問させてもらったのですが，すくもの原料のタデ藍が少ないというか生産量の問題点もありますし，やっぱり農林水産部と連携をしながら商品化していく，新商品の開発っていうところから，是非進めていただきたいと思います。
　先般，阿波おどり会館に連れていったアメリカ人のシェフの方が，実は藍染めにものすごく興味があって，その方，徳島に来る前に大阪で仕事をしていて，京都に行って藍染めの古布を買ったらしいんですけど，それが徳島産だったらしく，それで徳島に来られたと

きに一番先に何がしたいと聞いたら，藍染めがしたいということでお連れしたんです。実際それぐらい関心がある方は，ものすごく関心があって，徳島の藍染めは世界でもそれこそスタンダードになってきている，阿波藍という共通言語でもあると思います。

そのあたりは，県民の皆さんが自覚して，それをいかに上手にプロデュースして売り出していくかっていうところと，本物の藍染め，すくもから作って藍の花を咲かせてっていう部分と，あと工業用じゃないですけどお土産用っていうところのすみ分けっていうのもちゃんとしていただかないと。そこはもう商工労働観光部の分野では絶対必要なところです。だから価格帯が違うというところは当然あってしかりという説明も，ちゃんとできるような阿波藍の守り方っていうのをしてもらいたいと思います。

外国からわざわざ来る方は，本物の阿波藍といいますか，すくもを使って，その自然に建てたものを求めて来られるので，それが体験できる場所とかそれを見られる場所っていうところの演出なり，紹介なりまた説明できるような，本当だったら四国大学が持ってるような藍の家の資料館のようなものが，県にあったらいいと思うんです。その四国大学は誰でも来ても見にきてもらってもいいですよという話だったので，私はじゃあ今度お客さんがきたら連れてきますとお話させてもらいました。

そのくらい，徳島に来たら伝統藍のページもあるよっていうような場所は，期間限定とかで，常設ではないと思います。藍染めというのであれば博物館なり，観光施設なりに設置されていて，藍住町の藍の館は当然あるんですけど，あそこでもそんなに古い藍染めの作品が，ずらっと並んでるっていうような状況ではないように思います。やっぱりそのあたり，四国大学の藍の家では，こういうふうに昔から作っていましたよというところがあるんでしょうけど，徳島に行ったら，その阿波藍ってこんなんだったよ，こんなふうに保存されてるよ，いつがきても藍の色って古くなるけど，新しい色を出してるよねという見せ方も絶対必要だと思います。そのあたりももう一工夫してもらって，せっかくのオリンピックのチャンスだし，藍の日を創りましたし，徳島県の色が藍色になってますから，それに是非，相乗効果があるような取組をしていただきたいと思うんですけどいかがでしょう。

黄田観光政策課長

阿波藍の関係でございます。

委員からお話がありましたように一つは，実際にそのお土産とか藍製品を買われた場合に，いわゆる本藍，伝統藍で染められたものであるかどうかというあたりが，まだ今十分に表示とかできていない部分があろうかと思います。まずは，消費者の方が本当に御納得されて，伝統藍になりますとやはり値段も上がりますけど，普通のお土産でしたら金額が低いほうがいいとかいう，実際買われる方が選んでいただけるような仕組みといいますか，そういうのをまず検討する必要があるかと思ってますので，今後はそのあたりを検討していきたいと思っております。

また，実際に伝統藍，阿波藍を体験できる部分についての情報発信につきましては，委員からお話がありましたように，どこで体験できるのかというあたりも含め，整理して情報発信してまいりたいと考えております。

岡田委員

最後の委員会なのでいっぱい言いたいことを言わせてもらいましたが，厳しいことを言う理由は，税金を使ってするからには徳島県が更に魅力ある県として，やっぱり県民の皆さん，県外の皆さんにも世界の皆さんにも知ってもらって，徳島に１回行ってみたい，徳島って面白いなっていう，徳島県に来てもらって初めて分かってもらえるような仕組みづくりっていうのを是非してもらいたいと思うからです。

冬の寒いイベントで企画されていたのは，アイディアとしては良かったかもしれませんけど，今年の天候が悪かったとかいろいろあるし，それもどうしようもない話だけれど，それを補うべくアイディアをもう一つ出して，例えば防寒用のコート貸しますよとか，そういうもう一つ知恵が絶対必要やったと思うんですね。

防寒用のコートがあったら，自転車で回ろうかという人がひょっとしたらいたかもしれないし，そのあたりの一工夫というところが，実行委員会でされているのであれば，もう少し臨機応変にもできたと思います。そのあたりは，是非，既成概念を破って，これはできないじゃなくて，こうしたほうが喜んでもらえる，こうしたほうがいいのではないかという，おもてなしの心を養っていってもらわなかったら，商工労働観光部，観光が付いてる部ですから，その観光の部分を，これからも盛り上げていけるように，取組をお願いしたいと思います。それなりに要望させてもらって終わります。

朝日商工労働観光部長

お時間のないところで申し訳ありません。岡田委員からたくさん御意見，御提言を頂いたところです。

私ども，御意見にございましたけど，観光という名前を部の名前に頂きまして，非常に頑張っているところではございます。人口減少の中で，観光の位置付けというのは，大変大きいと考えているところでございます。

いろんなことをやっていくんですけれども，それぞれ皆様の御意見も頂きながら，より一層，徳島県が発展できるように，これからも頑張ってまいります。どうか御理解，御協力のほど，よろしくお願いを申し上げます。

岩佐委員長

議事の都合により休憩します。（11時52分）

岩佐委員長

休憩前に引き続き，委員会を再開いたします。（13時03分）

それでは質疑をどうぞ。

高井委員

私も，先ほどのお話があったとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルについて質問をさせていただきたいと思っております。

私も百聞は一見にしかずと思って見に行ってまいりましたが，作品自体は非常にすばらしかったと私は思います。「秩序がなくともピースは成り立つ」を見に行きましたが，す

ごいなあとこんなことができるんだと思いまして良かったと思います。

しかしながら，１億6,000万円というお金を使って先ほどからお話があったとおり，対費用効果。それから県が今回の取組についての様々な結果について，私たちも責任ある立場ですので，それをどう分析するか。また，作品がすばらしかったこととはまた別の問題でいろいろありますので，ちょっと聞いていきたいと思っております。

今回作品代が，大分お金が掛かるということで，皆さんからのいろんな意見がございました。県と市で１億6,000万円ということでしたが，やはり，今回これを見てみますと主催が四つになってますよね。とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバル実行委員会，それからとくしまＬＥＤ・デジタルアート推進協議会，それから徳島県，徳島市というふうになっております。恐らくこういうふうに四つの主催ということになれば，それぞれに運営においても役割分担がなされたことだろうと思いますし，作品代とは別に運営の中でもいろいろなお金なり尽力が掛かったことだろうと思いますが，その内訳は，大まかで結構です，作品代が幾らなのか，運営費に幾らぐらい予定してたかということは分かりますでしょうか。

黄田観光政策課長

ただいま，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの関係の予算についての御質問でございます。

今回，全体の収支予算ということで１億6,500万円という形で実行委員会のほうで決定し，委員会のほうにも御報告をさせていただいたところでございます。

そのうちの作品展示につきまして，収支でございますけど，予算の上では作品展示につきまして１億2,000万円，それから運営費につきまして2,000万円，内訳といたしましてはエリア間の移動でありますとかイベント警備とか案内スタッフ等々の経費でございます。それから広報，それから事務費につきましては2,500万円という形で，こちらはウェブサイトの製作でありますとか，ポスター・チラシの作成，プログラムの作成，それから広告等の経費，事務局費も合わせた金額でございます。これら合わせまして１億6,500万円という形になっております。

高井委員

主には１億2,000万円が芸術作品代ということで，その他いろいろな費用が掛かったということのお話でございました。

先ほどから時期がどうだったかということのお話もありましたが，時期については恐らく，皆さんその実行委員会の中でも念入りに検討されて，２月というこのふだんは観光客が少ない時期でここに来てくれたら，年間を通じても観光客が増えるという戦略もあったでしょうし，また，先ほどお話があったとくしま記念オーケストラの第九演奏会がありまして約3,000人，コンサート自体恐らく5,000人ぐらいだったんじゃないかと思うんです。ドイツや台湾からも合唱団に加わってきておられただろうと思いますし，観客の側も1,000人少々。それからいろんな関係者を含めてそれぐらいだったんじゃないかなと思うんですが，そういう時期と合わせてやった。その前々日ですか，ニューイヤーコンサートもとくしま記念オーケストラがやってましたし，いろんなイベントと重ねて，これを設

定したんだろうとも思います。

それに加えて，香港と台湾のチャーター便の話が11月議会で御答弁がございました。岡本委員でしたかね。11月議会の付託委員会の中で，チャーター便がスタートするということになって，ちょうどこの時期に当たっているということもありますので，時期の設定としては，非常にうまくいったんじゃないかなと思います。ただ，残念なことに先ほど話しのあった雪とか寒さ，今年は異常な寒さと西部のほうも大雪でございましたので，それだけは，なかなか計り知れないところはありますが，それでも私は，最初35万人と聞いたときに，ああ，あのぐらいの広報でこんだけの数が出てるんだったら大したもんだなと思ったぐらいなんです。だから先ほどから推計の仕方というのが本当にこれでいいんだろうかという話も出ましたが，厚生労働省の労働データとは違って，何ら詐称もしてないだろうと思いますし，きちんと与えられたとおりの観光入込客統計に関する共通事項というものに基づいて推計をした結果が，35万人だったということなんだろうと思いますので，私はこれは，徳島県人口の約半分弱なわけですから，これであの寒さの中ですごかったなあと本当に思っているんです。その算定の仕方は，聞いていて普通にピンとはこなかったんですが，それでも，ちゃんとしたルールにのっとって算定した結果がこのぐらいの数字であったということで，ある種成功であると私は思っております。

しかしながら，引き続きその対費用効果についての質問を続けさせていただきたいと思います。作品代が１億2,000万円という多大なお金が掛かる。その中で高校生のプロジェクションマッピングを見せてもらったんですが，あれなんかは，ほとんどお金が掛からない割りに，非常にアイディアに富んだすばらしい作品であったと思いますし，そのほか，お聞きしたのは，その周遊船をＮＰＯ法人新町川を守る会の方が出してくださってるので，万代倉庫からのライトアップがきれいに見えて，天気の良い日にはすばらしかったと，そういうことも，すごくうまく組み合わせていけば，もっともっと集客もできたんじゃないかと思うところもありますし，それなりに民の部分と官の部分で成功した部分はあるんだろうとは思っています。

それでもやはり，今までは県は実行委員会の主催の側には入っていませんでしたよね。今年から，県が入るから市も入るということになったのかもしれませんが，こういう民間中心のイベントに対して，県が主催に入るっていうことに対して，どういう政策判断がまずあったのか。ちょっと遡って聞くようになりますが，教えていただきたいと思います。

黄田観光政策課長

とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルに県が参画するとなった経緯でございますけれど，これまでのとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルにつきましては，県のＬＥＤバレイ構想のブランド戦略の取組の一つとして位置付けておったところです。その検討を進める中で徳島市からの要望によりまして，徳島市が実行委員会の事務局となって平成22年に初めて開催されて，その後３年ごとにこれまで３回開催されてきたところでございます。昨年１月に徳島市長さんから，このとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルにつきまして，毎年の継続開催を検討するとともに，開催に当たってＬＥＤバレイ構想を踏まえて，県と十分連携したいというふうな御意向がございまして，それを踏まえまして県のほうといたしましても，このＬＥＤのデジタルアートミュージアム構

想とも連携して，本県を代表し国内外の多くの皆様にお越しいただく冬の観光コンテンツとして，今回，県も市と一緒に主体的に企画運営に取り組むこととしたころでございます。

高井委員

徳島市から毎年開催の要望もあったということでしたら，多分今回の結果を踏まえて，来年どうするかってことを議論されると思うんですが，うまくいったということであれば，恐らく来年もしようという話になるのかもしれません。しかしながら予算として，毎年これぐらいの規模のお金が掛かるという，これを税金で負担するということは，県民の理解がどれほど得られるのか。県議会のこれからの議論も含めて，もう少し民間に任せてできる部分があるんじゃないかなという気がいたしました。というのも寒い時期でいいのかということもありましたが，私は，これだけ初期投資が掛かるものを作るに当たって，長い期間できないのかとか，光を見るのはずっときれいですし，春先までもし開催したら，春先の観光客の方々に向けて良いんではないかと考えたんです。

電気代はある程度は掛かると思いますが，しかしシンボルアートを作ったなら，下へ埋め込んだりいろいろ技術的に非常に最初の投資が掛かると思いますので，せっかく作ったものを10日間だけで，これまた取り壊してしまうのも残念というか，寂しいかなと。すばらしいものだっただけにそう思ったんです。

しかしながらそれは，ちょっと難しいというお話を現場でちらっと聞いたのは，やっぱり来ている方々がみんな県の職員であったり，市の職員であったり，当然民間の方やボランティアの方もおりましたけれど，特に夜，行列ができて混んでいるということで，私は夕方というか昼間に万代倉庫に行ったら，そのときはちょうど空いてましていろいろ話は聞けましたし見せてもらいました。楽しんでもらって帰っているという話も聞きましたが，夜は大行列で大変な状況で，そういった裏方作業も全部，県の職員であったり行政の方々が出ておられる。10日以上だと毎夜出ないといけないということになると，こっちの本庁の業務もありますし，なかなか難しいと私も思いました。それに費用面から考えても余り効率が良くない。もちろん，いろんな学生さんであったり，お手伝いしてくれてる方も多く拝見はしたんですが，それでもやっぱり主催が県であれば，県の方は責任者として毎日行かねばならないだろうと思いますし，その分の超過勤務もかさんでいくであろうと思いました。

広報等の部分は非常にうまくいったと，民間の方も言ってくださったということではありましたが，もう少しその費用をうまく抑えるようにするというか，民の力を利用してうまく役割分担ができていくような方策を考えていかねばならないのではないかと思います。この10日間という期限を区切った判断については，もともとどういう議論があったか，どういう判断だったか，教えていただきたいと思います。

黄田観光政策課長

まず時期の設定につきましては，先ほどからお話ししておりますように，県外，国外から誘客につなげられるように，この２月の時期で選択して設定をしたところでございます。

それで10日間につきましても，前回も10日間で，大体同じような日数で開催していたということもございますし，また委員からお話がありましたように，全体の運営関係の費用でありますとか，体制とかそのあたりも考慮いたしまして，今回は２月９日から18日までの10日間という形で設定をさせていただいたところでございます。

高井委員

大歩危でやっていただいたときは３日間でしたかね。あのときも大繁盛で，あれもすばらしかったとは思いました。しかしながらあのときは，多分県は主催者側には入ってなかったんではないかと思いますし，ああいう場所であるので，一度に混み合うとなかなか出られないので，大歩危は３日間が最大だったのかと思います。しかし街中のにぎわいを考えると対費用効果からも，もう少しその運営において費用を安くすることができるのであるならば，もう少し長い期間できたほうがいいんではないかと感じましたので申し上げました。

来期をどうするかについては，先ほどお話がありました。まだこれからの議論もあろうかと思いますが，やっぱり１億6,000万円を毎年掛けていくというのは，なかなか難しいんではないかと思います。今までも入場無料でずっときたんでないかと思いますが，今回のようなイベント系のものも，子供たちがいろいろなＬＥＤアートを作ったり，婚活イベントも含め，作ってみようとか，パフォーマンスやイベントもセットで行われてる場合っていうのは，やっぱり材料費も掛かります。

例えば，入場料を取れば実際に何人来たかというのがよく分かる話です。入場料を取ることによって，当然来るお客さんも減るかもしれません。しかし，運営費においては少し楽になったり，対費用効果という意味で，どっちが得なのかというのは，一つ検討に値するのではないかなと思います。逆に入場料を取って少しでも運営費を賄っていければもう少し長くできるとか。いろんなプラス面，マイナス面，両方あるんではないかなと思いますが，そういう点はいかがでしょうか。

黄田観光政策課長

今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルにつきましては，委員からお話がありましたようにシンボルアート作品につきましては，無料という形で行っておりますし，ワークショップの一部で材料等を使う分につきましては，材料代を頂いてる部分もございます。

無料の関係につきましては，今回もいろいろなアンケート調査の中でも，やはり無料で良かったという意見と，それから有料にしたほうが，委員おっしゃいましたように継続性が持てるのではないかという御意見も両方ございます。いろんな御意見を頂いているところでございますので，実行委員会のほうで十分検証してまいりたいと考えております。

高井委員

ちなみにワークショップなども，毎回人数はそろっていたという理解でよろしいんですか。いろんなトーク番組であったり工作教室であったり，イベントをされておりましたけれど，全体的に入っていたという感じですか。満席だったという感じでしょうか。

黄田観光政策課長
　今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの間に行われました，ワークショップとかイベントの関係でございますけれど，ワークショップにつきまして，万代倉庫につきまして，部長から御報告させていただきましたように，竹灯ろうを作ってみようという形で，竹とＬＥＤを組み合わせて灯ろうを作るものでありますとか，ＬＥＤを使った工作教室で光のオブジェを作るというワークショップを開催いたしましたけど，こちらのＬＥＤ工作教室は，期間中毎日，夕方行っておりましたけど，時間帯によってはかなりお待ちいただくといいますか，大勢の方に御参加いただいたところと聞いております。

高井委員
　ちなみに客層というか，子供さんとか大人であったりとかそういう年齢層の分析ってできるのでしょうか。外国人の人数とか県外，国外客の割合は14.7％と出ておりますが，そういうどの層が多かったのか。子供さんの層も多かったのか，やっぱり年配の方が多かったのか，そういうのは分析可能なんでしょうか。まだ終わってすぐなのでできていないかもしれませんが，いろんな意味で次につなげるのであれば，年齢層であったり，男女比でどっちが多かったとか，そういうこともいろいろ考えて分析していく中で，次の戦略を練っていく必要があるんではないかなと思います。

黄田観光政策課長
　客層でございますけれども，アンケート調査を今回実施させていただいておりますけど，その調査の中で性別，それから年齢につきましては，年代ということで例えば，40歳代・50歳代とか，それから何人で来られたかとか，御家族で来られたか友人と来られたのかと，そのあたりも回答いただくような形にしております。ちょっと詳細につきましては，まだ十分な分析ができておりませんので，アンケート調査を踏まえて，十分内容を精査して分析して検証してまいりたいと思っております。

高井委員
　いろいろと分析をして次につなげていってほしいと思います。本当に私はすばらしいと思ったんです。作品自体というか，こういういろんな技術を徳島がＬＥＤアートで先んじていくっていうのも，一つの大きな宣伝にもなるだろうと思いますし，すばらしいと思いました。だからこそ，ああすごい良かったねと。
　このとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルを開催するというのは，もちろん県議会にいるので先に聞いておりましたが，そのほかは徳島新聞と四国放送やＮＨＫも放送してましたかね。そこで少し見て，あの特集はすごく良かったと思います。すごく見たくなるような映像の力というか，きれいな，すばらしいなと思って，見たいと思ったんですが，それ以外のところでは，実は宣伝も広報も余り聞いたことがないんです。何かに出していたというのもないような気がして，それなのに，本当にたくさん思ったより来ていたんだと思いましたが，後で聞いたところによりますと，チームラボをはじめとしたＬＥＤアートの分野の関係者って，横のつながりが全国でも非常にあるようで，徳島でこんな

ことしてくれたら行こうといって，わざわざこれを見るために来てくれた県外の方，若い方，また企業の方もいるということを聞きまして，やっぱりこういう先進的なことをすれば，非常に関心を持って集まってきてくれる人も多いことは事実だと思います。

デジタルの分野，非常に徳島の一つの特技としてこれからも進めていってもらいたいとは思いますが，対費用効果について，これぐらいの多大な金額をこれからも掛けていくのかどうか，いろいろ工夫をしてできる限り税金を投入する金額を少なく，かつ長続きし効果的に，いろんな方に訪れてもらえるような方策を，今回いろいろ分析をして検討してほしいと思っています。

それとともに外国の方がたくさん来られたという話の中で，ちょうど国際チャーター便が，この期間中だけでなく１月からスタートして，今日に至るまでのその実績等，それから状況について，どのように今のところ分析してらっしゃるか，教えていただきたいと思います。

戸川国際課長

ただいま委員のほうから，今回のチャーター便の状況についての質問を頂いております。

まず香港のチャーター便につきましては，期間が１月21日の日曜日から３月22日木曜日までの，日曜と木曜の週２便ということで計18往復を予定としております。

それで現在までの状況というところでございますけれども，この前の2月25日までの実績でいきますと搭乗率は82.4％で，かなり順調だと我々は思っております。

それから現状といいますか，今の感想を申し上げますと訪れた観光客の方，帰り際に時々話とかを交わすこともできるんですけれど，そういったときに，おもてなしが非常に印象に残ったと言ってくれております。特に空港でのおもてなしでは，ゆるキャラや横断幕等でのお出迎えも非常に好評でして，来た早々，皆さんカメラに収めて，それからツイッターなどで発信していただいたりしております。それは出発便の際にもそのような傾向が見られます。

それからそれぞれの観光地だとか宿泊先においても，横断幕で歓迎いただいたりしてくれておりまして，そういったところも非常に好印象を持っていただいているというお声を頂いております。

それから県内での買物などもしていただいているところでございまして，大型商業施設等もコースに入っておりまして，そこでの買物もありますし，それから最後，出発間際の徳島阿波おどり空港でも，非常に多くの方が買っている状況を目にしております。その際には徳島県産のイチゴだとかキウイだとか，そういうのも実際に販売もしておりまして，それも非常に香港の場合は，検疫がちょっと緩いということもあって，そこで買った物をそのまま持ち帰れるというのもございまして，イチゴ等を買って，そのまま機内に持ち込んで持って帰るということもできます。非常に徳島のイチゴがおいしいということで，イチゴやキウイを買ってくださるお客さまが多いという状況です。

それから台湾の方ですけども，これは２月９日に徳島にインして，それから２月12日にアウトということ，これ１回１往復，双方向チャーターの２往復ということにはなるんですけども，これにつきましては搭乗率が98.3％ということで，ほぼ満席であったというふ

うに聞いております。こちらにつきましても，ツアーに参加していただいた観光客に聞いてみますと，いろいろ知らなかった部分が，徳島，四国東部とか関西地区も含めますけども，非常に良かったというふうな印象で帰っていただいております。

高井委員
　今，ＪＲ四国でやっている千年物語でも，やっぱり地元の方々のおもてなしがすばらしいということで，日経新聞なんかで大きな賞を頂いたり，本当に徳島の人のおもてなしの精神っていうのは，やっぱりすばらしいと改めて感じたところですが，徳島阿波おどり空港で初めての国際線の運航でありましたけれど，その点においては，特に何の問題もなく，税関といろんな手続等も問題なくスムーズにいけたのかどうか，課題があったというふうに感じたところがあれば教えていただきたいと思います。

戸川国際課長
　空港でのトラブルというところでございますけれども，所管ではないんですが，聞いているところで言いますと，機械の調子が一時期ちょっと不安定な部分があったというのはありますけれども，そういったごく小さなトラブルでございまして，全体のツアーに関わるようなトラブルはなかったと聞いております。

高井委員
　順調なスタートで，これを定期便に向けてつなげていくために次の戦略が必要になってこようかと思います。
　ちなみに，先ほどもお話がありましたけど，入ってからどこへ行かれたか。どういうルートをたどって出られたか。また関西国際空港から入ってきて徳島阿波おどり空港から出るに当たって，どういうルートをたどっていったか。どこに立ち寄ったかみたいなものは，分析していらっしゃるということなんですよね。
　このとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルも，そのチャーター便を運航する旅行会社とかにも当然広報しておられたんだろうと思いますし，その中で直接バスで寄ってくださった所も，幾つかあるのかどうか。それも分かれば教えてください。

戸川国際課長
　今回のチャーター便と，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの周知でございますけれども，もちろんこのとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルというのが徳島の冬の大規模なイベントということで，前々から各旅行会社にも宣伝をしてまいりました。
　この度，ちょうどチャーター便が就航する時期と重なるということもございますので，香港からのチャーター便につきましては，その期間中に発着する分につきましては，コースにとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルを実際にコースに設定していただいて，見ていただいたということでございます。
　それから台湾便につきましても宣伝をしておりまして，最初はコースには組み込んでいただけてはなかったんですけども，来た際に添乗員さんらに御案内いたしまして，それ

じゃあホテルに近いから見に行くよと言ってくれておりましたので，恐らく見ていってくれたんだろうと思っております。

高井委員
　ありがとうございます。そうしたことで，やっぱり日本良かったな，徳島良かったなというふうな良い印象が残っていれば，次への定期便，リピーターともなってくださるように続いていくと思いますし，また定期便へ向けてのいろんなアドバンテージになろうかと思いますので，引き続き，来た皆さんの満足度というか，どういうルートをたどっていって，何に一番満足されたのか，例えば徳島で，あと足らないところは何なのかということも含め，いろいろ分析をしてしっかり観光客誘致につなげていっていただきたいと思います。

長池委員
　朝からずっととくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルで大変恐縮なんですが，私もほぼ同じ内容のことをお尋ねするというか，できるだけ簡略していきたいと思います。同じ内容になっては議論が進みませんので。
　とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバル，私もこの委員会が６月に始まってからこの案件が出て，それぞれの委員さんからしっかり詳細をもっと報告すべきであるとか，作品募集ももっと公明正大にすべきであるとか，そういった意見がいろいろある中で，結果，四つの作品をチームラボに丸投げして今に至っておるということで，非常に私はこの１年間を通してこの事業に関しては，残念だなというふうな感想でありました。さらには，本会議においての議論の中で，来場者の数がかなり水増しされているのではという意見も出ました。そういう議論があった中で，今日，午前中からずっとこういう議論が続いております。
　私もこの件について，何点か項目としてはあるんですが，議論になっております来場者の数のことなんですけれども，そもそも去年と同様の計算方法，観光庁が正式に認めておるイベント時の来場者のカウントの仕方ということでありますので，その方法自体に私は特に文句はございませんが，ただ，当てはめていく上での数字をどういうふうに扱うかっていうのは，今度はカウントする側の裁量といいますか，実はそれが大きく関わってくるんだと思うんですが，実際に計算をしたのは，どなたがしたんでしょうか。

黄田観光政策課長
　来場者数についての推計でございますが，委員からお話がありましたように今回につきましても，前回と同様に観光庁の観光入込客統計に関する共通基準に基づきまして推計をしております。集計等は実行委員会の事務局のほうで担当しております。

長池委員
　去年は実行委員会に県は入っていなかったんですかね，今年度から入ったということで，当然事務局への参画っていうのは，去年まではなくて今年はあったんでしょうかね。そのあたり，県が今年から入ったのだけれども，来場者の数に関しては，従来の引継事項

で，多分カウントしていったんだろうと思うので，かなり県のほうで来場者のことで，随分議論が出ておりますが，私からすれば数に関しては，県も苦しい立場なんだろうというふうに思います。

実際，皆さんも行かれて，そんなたくさんはおらんかったんだろうっていうんが，大概の意見というか感想でございますが，ただし，去年より人数が減ったとなると何か気持ち良くない，事業としても良くないなという思わくとか，何かいろいろあるんだろうと思って，余りそのあたりのところまでは追及しませんけれども，問題は違うところに，高井委員もさっきおっしゃいましたけど，今，世間では裁量労働制かな，データの改ざんとかね，県民から見るとあんなふうに映っちゃうんですね。

そんなたくさんおらんかっただろうに，こんな数字出してくるっていうのは，行政って市も県も，何かちょっとおかしいんじゃないかというふうに思われる世の中になっておるんです，皆さんに私が言いたいのは。前は寛容性があったんで，そんなにたくさん来てないけど，これぐらいおったんだろうというようなものでね，こんな議会に追及されるような雰囲気はなかったんでないかと思うんですが，今の時代は実は違うんですね。

例えが悪いんですけれどね，選挙とかで出陣式とかしますと，500人ぐらいしかいないのに，1,000人と発表したりするんですよ。でもね，最近は各陣営でもそんなことをしないようになってきているんです。それは，来た人がこんなたくさんおらんかったよっていううわさになるから。政治っていうのは，やはり選挙に出るっていうことは，正しい情報を発信しなくちゃいけないという時代になってきております。にぎわいとか御祝儀とかそういう雰囲気じゃなくて，やはりある程度，500人来ていたら，600人か700人ぐらいと陣営が報道機関に発表する。これを500人しか来てないところをひどいときは2,000人来ていたという陣営も昔はありましたけど，今はそういうことはしておりません。

行政としても，やっぱりこのあたりのイベント開催時のカウントの仕方っていうのは，今後の課題としてしっかり取り組むべきじゃないかということを私は思っております。

はっきり言いますと，35万人と言いますが，私の単純計算で大体10万人は切っておるだろうと思います。どう考えてもそんなものだと思います。普通に考えたら分かるように，さっきの計算式で，最盛時の人数をまず掛けてますよね，回転数も入れ替わり数も掛けてます。一番大きいのは面積ですよ。多分面積といっても，城山公園とか立入禁止のところまで全部面積に入っていると思います。よく調べてみないと分かりませんけれど。雨の日だって，風で寒くて展示できなかった日もあると，岡田委員もおっしゃっていたけれど，多分，掛ける10日としていると思います。そういうところで水増ししていくと，多分私は35万人の２割から３割ぐらいしか来てなかったんじゃないかなと思います。それは，ここで皆さんにその数字に訂正しろとは言いません。

今後のイベントとか阿波おどりのことにも関係してくるのですが，そういうものに対する発表の在り方っていうのは，課題としてきちんと反省点として挙げてほしいというふうに思います。

さらにそれから言うと，来年，もし同じような手法で同じようなやり方をしますと，また同じような来場者数を求められると思います。すると，また同じように数字を大きく見せないけないようになるんですね。来年急に15万人になりましたと言ったら，事業大失敗って言われますよ。来場者をそんなに気にしなくてもいいようなイベントに変えるしか

ないんですね。是非そのあたりも含めて，しっかりとこの来年のやり方っていうのを，やらんのが一番良いかなと思いますが，それしかないですよ，この呪縛から逃れるには。

（「はっきり言ったらどうですか，やめたらいいよって。」と言う者あり）

どう言いましょうか。私はほかの会派の方とも，みんなと仲良くしたいんで，余り厳しいことは言えないんで，ただ，今のやり方，特に従前から言ってます，チームラボに丸投げのような形でやるには未来がないと思います。

これは，とくしま記念オーケストラの問題でも出てきましたけれども，そういったやり方っていうのは改めなくてはいけない。これどうなんですか，改まりそうなんですか。それとも，今，意見が出ましたけれど，もうやめるのか，そのあたりどんなふうに決めていくのかだけ教えてください。

福田商工労働観光部次長

まず，35万人という来場者についていろいろ御意見を頂いておるところでございます。

前回の徳島市が主体となって行ったとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルが32万人という，その計算方法というのを今回踏襲したということで，このような数字を発表させていただきました。

岡田委員からも，実感を伴う数字というような言葉もございましたけれども，今後，我々いろんな事業の成果とか，そういうものを測っていく尺度の中で，県民の方が実感を伴っていただけるような目標設定とか，そういったものができないかどうかということについて，我々真摯にこれから検討をしていかなければならないと考えております。

それと今回，イベントの内容につきましても，いろいろ御意見がございます。これにつきましても，実行委員会できっちりと成果とか課題を検証していくということでございます。

今後のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルをどうするのかということについては，我々，県議会の皆様方はもちろんでございますが，実行委員会とか協議会とか，いろんな方々から様々な御意見をお聞きして，決めていきたいと考えております。

長池委員

考えていただけたらと思います。さっき議論の中で，ＬＥＤバレイ構想という言葉が出ました。ＬＥＤバレイ構想の中でのいわゆるブランド戦略というところも，このとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルには大きな意味を成しておるということであります。

確かに，徳島県は日亜化学工業株式会社のおかげでノーベル賞を取るような大きな脚光を浴びて，一躍全国においてもＬＥＤの世界で優位性といいますか，そういうのを得て，県もＬＥＤバレイ構想ということで一大事業といいますか，県の方向性というのを柱に据えたように私は記憶しておるんですが，随分それから時間もたっているので，徳島県はＬＥＤすごいよというのが，当時は私も胸を張って言えたんですが，最近どうなのかと思っております。

その後，きちんとＬＥＤバレイ構想が実を結んで，これまでの経過として徳島のＬＥＤにおける優位性が，しっかり担保できておるのか，発展しておるのか，若しくは県外更に

は国外にそういったＬＥＤの分野で，かなり苦戦を強いられておるのか，そういった部分を教えていただきたいと思っております。

まずはＬＥＤバレイ構想がそもそも，いつ構想されたのかもよく分かりませんので，そのあたりも含めて出発から現在までの経過というのを，改めてお聞きしたいと思います。

中西新未来産業課長

長池委員からＬＥＤバレイ構想についてお尋ねを頂きました。

本県では，世界最大級のＬＥＤ生産拠点が立地いたします優位性を生かして，高品質なＬＥＤとものづくり企業が有する高い技術力を連動させた産業集積を促進するために，平成17年にＬＥＤバレイ構想を策定いたしまして，産学官一体となり，ＬＥＤと言えば徳島ということで，地域ブランド化や産業振興機能の強化などに取り組んでおります。

その結果，現在では140社を超える企業の集積がなされておりまして，ちょうど平成17年の構想策定時には，企業数10社ということでございましたから，かなりの集積が進んでおるというような状況でございます。

また，ＬＥＤ関連産業を本県の基幹産業として大きく成長させるため，平成23年にはネクストステージ行動計画というものを策定いたしまして，開発・生産戦略，ブランド戦略，販売戦略を推進し，全国屈指のＬＥＤ応用製品性能評価体制の構築でありますとか，本県独自の認証制度の創設，更には自治体初の常設展示場の開設など，一定の成果を上げてきたところでございます。

こうした中，平成27年には，更なる飛躍を目指すワールドステージ行動計画を策定いたしまして，これまでの開発・生産，ブランド，販売の３戦略に加えまして，新たにワールドステージ戦略を重点戦略と位置付けまして，高品質なＬＥＤ応用製品の海外市場への展開でありますとか，ＬＥＤの新用途開発，応用研究などを推進をしているところでございまして，こうした取組を進めることによりまして，ＬＥＤバレイ徳島の世界展開を強力に推進してまいります。

長池委員

140社以上もあるというのは，私もすごいというふうに思います。140社が100万円くれたら１億4,000万円ですから，今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルもそれで賄えるかなと，私はすぐそんな計算したがるんですね。

ただ，そういう徳島がＬＥＤバレイ構想で積み上げてきた優位性といいますか，育ててきた企業というものが地盤にあって，私はとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルもあっていいのかなというふうに思います。

やっぱりそれだけの，例えば阿波おどりが140年あったら，阿波おどり開催していいですよっていうイメージですよ，それに県がお金を掛けるのは。それは基本はいいんかなというふうに思いますが，このＬＥＤバレイ構想，もう１回聞きます。他県に比べて，ＬＥＤと言えば徳島というふうになっておるのかどうか，もう１回お聞きしたいと思います。

中西新未来産業課長

徳島は他県に比べてＬＥＤに関してどうかというような御質問かと思います。

まず，先ほども申し上げましたけれども，本県には世界最大級のＬＥＤ生産拠点が立地しておりまして，このこと自体，既にほかの地域と比較いたしましても，まずもって優位な県というようなことがいえるかと思います。

そのほかにも，県内企業の開発シーズでありますとか，高等教育機関の用途研究のニーズを結び付けた新分野の製品開発の支援でありますとか，あと，徳島県立工業技術センターのことでございますけれども，ＬＥＤトータルサポート拠点ということで位置付けておりまして，光学性能あるいは安全性能，更には環境性能といったことまでをワンストップで性能評価を行えることができるような開発支援。加えてＩＳＯに適合した測定試験の実施もしており，これの対象分野を拡大いたしまして，世界品質，世界に通ずる作品の開発支援。また，県内産のＬＥＤ素子を使用した応用製品について独自性や市場性，信頼性の観点から審査を行いまして，照明製品については徳島県立工業技術センターにおける光学性能評価を実施いたしますことによって，認証制度を運用いたしまして，この認証制度の登録製品を県が率先購入いたしますＬＥＤ応用製品普及加速化事業，こういったものを実施しておるところでございます。

こういった取組を進めることによりまして，新製品開発でありますとか，販路拡大につながるこの地域からの優位性を有しておるものと考えております。

長池委員

優位性があるとおっしゃっていただいたので，私も少しまた気持ちを切り替えて，徳島はＬＥＤの町であるというのを是非ＰＲしていきたいと思っています。

その上で，元に戻りますが，とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの件です。端的に言うと，この目的が様々なんですね。そのＬＥＤと言えば徳島っていう，ＬＥＤバレイ構想の一つであるのであればね，これ多分ある意味看板みたいなもんですね。徳島に来たときにそういったイベントがある，また，もっとしっかり大々的に常設であるようなものを私は増やすべきなんじゃないかと思います。

今あちこちで，民間の方とかも御協力いただいて，例えば，あの新町川の橋の欄干と言いますか，ああいうのを見たらきれいだと思うし，ああいうのが街のもっといたる所にあれば，徳島ってＬＥＤの街やなというふうな雰囲気を，内外に認めてもらえるんじゃないかなと思います。

看板なのか，観光が目的なのか，冬のにぎわいづくりが目的なのか，更に言えば，この徳島の文化を創ろうとしているのか。そういう目的が実は明確になっていないというか，どれも大事な目的なんで，それぞれちょっと弱くなっているんではないかなということを指摘させてもらいたいと思います。

にぎわいづくりとしては，まだ市民参加型が少ないなという点が大きくあります。チームラボに偏った巨額の税金を投入するよりは，１作品50万円でも100万円でも出して，市民の募集をした方がよっぽど県内外から来ていただけると思いますし，観光という意味では，まだＰＲが不足しております。でも文化創造という意味では，子供たちがまだまだ余りにも参加数が少ないという意味合いもありますので，そういったそれぞれの効果に合わせてしっかりと精査していただきたいです。

とくしまマラソンは，県から支出するのが3,000万円でしたか，確かそのぐらいの金額

だったと思います。たった１日のイベントですが県内の糖尿病の数が多いということで，健康づくりのための出発点だったと思いますが，今や徳島の一大イベントとして非常に多くの参加者，1万5,000人ですから，今回よりは少ないんですが，市民・県民に認知されたイベントでありますし，副産物としても県外から観光客が来ていただいております。マラソンと言えば徳島とはなってないと思いますが，あのイベント自体，非常に評価が高いイベントであります。

やはり，やってみないと分からない部分もありますが，今回のとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルに関しては反省点が多いと思います。主催者が四つもあるということで，なかなかうまく協議，議論，改善していくのは難しい部分はあるかと思いますが，是非ともそのあたりも勘案した上で，しっかり進めていっていただきたいなと思います。言いっ放しではあれなんで，誰か来年度に向けた一言いただけたらと思います。

朝日商工労働観光部長

ただいまは，長池委員からとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルに関しまして，様々な御意見，御提言を頂いたところでございます。

この事業につきましては，これまでも御報告してまいりましたけれども，ＬＥＤバレイ構想がもともとあって，その基盤の上にデジタルアートを融合させるような新しい徳島の価値を上げていく。あるいは，国内外へ情報を発信して冬期の観光誘客につなげる。あるいは子供たちに先端技術に触れる機会を創出して，若い世代を中心に科学技術への興味を持ってもらうと，様々な目的を持っていたというのは，御指摘のとおりでございます。

目的が明確でないとか，市民参加が少なかったという御意見もあろうかと思いますが，今回は，シンボルアートのほかにワークショップなどにも努めてまいりまして，私が見にいったときには，小さいお子様も，あるいは若いカップルといいますか，家族連れの方もたくさん来ていただいたところでございます。

今回御来場された方，あるいは，ボランティアで御参加いただいた方，皆様の御意見なども踏まえまして，今後，実行委員会におきまして今回のフェスティバルの成果，課題につきましては，しっかりと検証してまいりたいと考えておりますので，どうかよろしくお願いを申し上げます。

長池委員

何か今のは，今回はよくできたというような，すっきり受け取れんかったような答弁でしたけれども，別に目的がたくさんある分にはいいし，何か今のだったら子供も参加したし市民も参加したし，外国人も来たしみたいな答弁がずっと続いてますが，やめたらとまでは私は言いませんが，このイベント，今の時点では本当に釈然としてないんですよ。これだけは肝に銘じてほしいと思います。釈然としてません。誰もいない城山公園に行って，寒い中，作品も見ましたよ。こんな子供だましみたいな，何やこれと思いましたよ。

あれでアートだなと思う人もおるけど，子供だましだなと思う人もいると思うし，私はそちらです。藍場浜公園で変な風船を蹴ったり，殴ったりしたら色が変わるやつ，あれも何がアートなのかという感じで釈然としません。釈然とせん人もおるということです。それが更に釈然としない数字が出てきているから，これだけ議論になっているのです。

来年度は，私は経済委員会ではないんで，余りもう来年度のことは来年度の委員さんに任せますが，是非，そのあたり，多分，本会議の代表質問で岡議員が強い言葉でおっしゃったのは，一つの真実だと思います。大きな怒りをもって発言されたその内容に関しては，私もある程度は賛同できる部分であります。ここに岡議員がいなくて良かったなというふうな気がしますが，それの意味合いも込めて，しっかりと，ＬＥＤといえば徳島と，ここが私は目標かなというふうに思っております。だから観光も来るし子供も育つし企業も育つというふうに思うんで，是非そういった部分を今一度大きな反省をしていただいて，進めていっていただきたいと思います。

岡本委員

朝からＬＥＤを勉強させていただきまして，各委員さんが，いろんな意見を言いましたけど，正にその思いっていうのはしっかりと受け止めて，次につないでほしいと思います。

今議会は，来年度の予算のことも入っているんで，予算のことを何かちょっと言っといたほうがいいのかなという感じだったんですが，そもそも予算って意外と気が付いてないのだけれど，徳島県で教育費は別にしたら，商工費は13.5％あって，多いんよね。民生費よりも多いし，農林水産業費より倍あるね。

そんなことも思ってちょっとだけ，11月の付託委員会で質問をさせていただいた件なんですが，中小企業向け融資制度の小口資金，1,250万円を2,000万円にして，今そういう予算になってますよね。それから創業者無担保資金を1,000万円から2,000万円にという予算が今提案されていて，それは非常に喜んでいただいてます。昨日たまたま，徳島県社交飲食生活衛生同業組合の顧問をしているのですが，その会に出ましたが，すごい喜んでました，ちゃんと議決してくれるだろうなと。大丈夫だろうと思うんですが，ただ，これって予算的に融資枠とか，どう増えるのだろうか。中小企業向け融資制度っていうのは，ちょっとこのあたりが非常に分かりにくい。それで今のように提案になってますよね。どんなふうにいけるんかな，ちょっと分かりやすく言ってくれるかな。

山川企業支援課長

ただいま，県の中小企業向け融資制度の小口資金について，来年度の予算枠ということの御質問だったかと思います。

今委員がおっしゃいましたように，小口資金は１件あたりの限度枠が，今年度1,250万円から2,000万円への拡大ということで御提案をさせていただいております。

それから創業者無担保資金も，現在の1,000万円を2,000万円と，１件あたりの限度額を拡大するということで御提案させていただいてます。

それに伴って，それぞれ，この創業者無担保資金と小口資金の予算枠では，大体５億円をプラスして，それぞれの小規模事業所，中小企業に御活用いただけるように予算計上させて頂いております。

岡本委員

去年がトータルでいくと222億円やね，今度は227億3,100万円になっているよね，この

差は計算したら５億円やな。その中小企業向け融資制度トータルの227億3,100万円ですよね。増えた分がちょうど５億円増えているので，その５億円というのはここということで良いのですよね。今の説明だといっぱいあるのだけれども，トータルで増えたのは５億円ですよ。今の答弁だとこの二つで５億円増えたってことでいいんやね。

山川企業支援課長
　すいません。若干訂正させていただきますと，全体で５億円プラスしております。
　その半分が小規模事業者の先ほどの，創業者無担保資金と小口資金等で２億5,000万円ということございます。

岡本委員
　分かりました，５億円といったらすごいと思いました。でも，２億5,000万円増えたのは大きいと思います。すごく良いと思っています。本当に結構期待してましたから，質問したこともあって，お礼を兼ねてあえて今日また質問したんやけどね。
　それでね創業者無担保資金は，保証実施市町村を拡大って書いてあるね。これは今どのぐらいの市町村があって，来年度どのぐらい頑張ろうかという話は分かりますか。

山川企業支援課長
　現在の創業者に対してできるだけリスクなく資金をお借りいただきまして，創業していただきたい。そういう動きを加速させるために，私どもも保証料補填ということでやっていくんですが，更に上乗せで各市町村に協力していただけないかと働き掛けをしているところでございます。
　平成29年度に１市，それから平成30年度から３市がやりたいと言っていただいているところでございます。

岡本委員
　その３市っていうのは言うたらいけないのかな。構わないのなら，今の１市と併せて言ってください。

山川企業支援課長
　平成29年度に実施している市は鳴門市です。平成30年度から予定ということではございますが，阿波市，美馬市，三好市が声を上げられております。あと，いろんな声を頂いていますが，ここで言えるレベルではこのぐらいです。

岡本委員
　もうこれ以上聞きませんから，ちょっとずつ増やしていってね。何でそんなことを言うかというと，県は徳島県経済飛躍のための中小企業の振興に関する条例を作ったでしょう。各市町村にその条例を作ってほしいとかなり言っているんですね。そんなこともあって，それをどんどん増やしてくれたら良いと思います。おとといに美馬市に行ったんですけどね，藤田市長さんがかなり条例を作ることに乗り気でした。そういうのも広げていっ

ていただけたら良いのかと思います。

もう一つ４月に，マジェスティックプリンセスって知事が所信表明で言ってましたけれど，3,560人のお客さんが乗れる船なんですが，330メートルかな，小松島港の赤石ふ頭に来るんです。乗組員とか合わせたら，船一つがひょっとしたら勝浦町の人口と変わらないのかなと，寂しい思いがするのだけれど。それが４月に台湾から来て，それで勝浦町に桜を見に来るんです。船は県土整備部だけれど，ここの商工労働観光部の福田次長が，実は前の勝浦町の副町長なんです。だから非常に連絡を密にしてくれているのかなと勝手に思っているんですよ。どんな御支援を頂けるのか，ちょっと言ってください。

福田商工労働観光部次長

委員から御紹介を頂きましたように，４月４日にマジェスティックプリンセスという豪華客船が小松島港に寄港いたします。

今のところ台湾から寄港ということで，台湾の大手の旅行会社の，ライオントラベルというところが企画をしてやってくるということで，まだ募集はやっておりますが，2,000名規模で降りてくる。そのほとんどのお客さんが，何班かコースは別れるんですけれども，勝浦町で花見をやるというようなことになっております。

これは，徳島にこの時期に行く，桜が見たいというんで，いろんな地域を御紹介をしたところ，場所も小松島市から非常に近いということもあって，勝浦町に行ってみようかというようなところでございます。今現在，町もこれをお迎え，おもてなしのために新たな組織も民間団体と作っていただきまして，一生懸命頑張っておられます。

県としては，その協議会に県職員を派遣いたしまして，いろんなお手伝いでありますとか，あとボランティアで通訳ガイドとかも必要であれば，お手伝いをしたいとか，そういうようなことを考えております。

岡本委員

全部ボランティアで段取りしています。生比奈ロマンの会っていうんだけどね。その横がビッグひな祭りの会場で，ひな祭りもそれまでちゃんと置いておこうということになっていて，有り難いなとは思うんですが，夜も寝ないで段取りばっかりしています。

県にいろんな御指導いただいたら，なお良くなると思って，あえて勝浦町の御事情よく分かっている福田次長に答弁してもらったほうが，また帰って言いやすいんで，すごく期待しています。多分，通訳はそうなんだけど，またバスがそんな通ったことない所にいっぱい来るんで，今は2,000人の予定がもっと増えるかも分からないし，良いことなんだけど，要するに国際観光って分野でまたいろいろ頂きたいなと思います。

さっき高井委員が言っていたんだけど，この前のチャーター便とかは，なぜかイチゴなんですよね。あちらでは絶対イチゴらしいです。だけど４月４日には勝浦町のミカンがあるので，その辺も買ってくれたらいいと思います。

外国の人は日本に来たら桜が見たいんです。徳島イコール阿波にならんのだけど，正に日本イコール桜ということなんで，これまた言うてくると思うのでよろしくお願いします。

岩佐委員長

私のほうから質問させてもらうのはどうなのかなとは思ったんですけども，今，岡本委員からちょっと話題は変えていただいたんですけど，やはり，ちょっと漏れている部分もあるので，何点かだけとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルのことについて質問をさせていただきたいと思います。

６月議会で批判が出てきた時点から，不透明な部分が多かったというので，かなり注目もされている。それで今回その事業が終わったということなんですけれども，やはり，朝からの話で一番大きいのは，実感と公表の推計にかい離があるという部分なのかなというふうに思います。

その算定の方法であったりとかお話しいただいたんですけれども，９月議会の付託委員会で，この来場者数を計測するのを，一応ここに書き留めてあるのは，３地点で観測っていうふうに書いてあるんですけども，それはどうだったのでしょうか。

黄田観光政策課長

ただいま，来場者の関係について御質問いただいております。

３地点につきましては，前回のフェスティバル時の調査ポイントが３地点で観測いたしまして，それで全体の32万人というふうに推計をしております。

岩佐委員長

では今回はもう１地点ということでいいんでしょうか。

黄田観光政策課長

今回につきましては，シンボルアート作品が４エリアという形でございましたので，シンボルアート作品を展示しておりました４地点と，ライブ等とパフォーマンス，ワークショップが両国橋の南側の広場周辺で行われまして，その地点と全部で５地点で今回調査しております。

岩佐委員長

では５地点それぞれで観測をして，ピーク時の人数掛ける，そこのエリアの人数を掛けたということでいいんですかね。ちょっと勘違いと言ったらあれですけども，１地点だけ，一番多いイベント広場で観測したのに，例えば全部のエリアを掛けていたら，ちょっとそれは問題があるのかなと思ったんで，ちょっと確認をさせていただいたんですけども，ただそういう意味では，前回は３地点，今回５地点という形で，まずそこまでの誤差というのは出てこないにしても，単に32万人が35万人になったいうのは，単なる相対的な数に増えたというふうに捉えているのが，多くの方だと思います。実数ではなかなかないのかなと思うんです。

あとその中に，先ほどのアンケートの結果で14.7％の人が2,000人にアンケートをとったら県外，海外だったということなんですけど，これも県外と海外の割合っていうか県外は何％，海外は何％っていう数字はあるのでしょうか。

黄田観光政策課長
　県外と国外の関係でございますけど，県外国外で14.7％という形で計算しております。内訳につきまして県外が12.3％，国外が2.4％という形になっております。

岩佐委員長
　国外が2.4％。ただチャーター便に関しては，多分，先ほど話があった数字ということなんで，それ以外にも個人で来県されている集計の結果と捉えるのですけれども，ただ14.7％は，35万人からいえば５万人ぐらいの数字になるんですよね。ということはその差である30万人というのは，大体県民の２人に１人は見たというような感じになってくると思うんですけども，ただ残念ながら，私の家でも私しか見ていないんで，徳島市内の方は見たり通ったりはしたのかというところもあるので，そこらも実際この推測された数字と実数とのかけ離れっていうのが出てくるのかなというふうに感じます。
　そこでなんですけども，そういった積算していく部分と実数として出せる部分っていうのもあるかと思うんですけども，特に，そこの県庁前のチームラボクリスタル花火の場合は，あそこで参加しようと思ったらＱＲコードで撮って，そこからスマートフォンで動かせば花火が上がるっていうことだったんですけども，ただ，あれも私も，ちょっと何回かアクセスしてしまったので，一人当たり二，三回アクセスしているとは思うんですけれども，そこのアクセス数って言うんですかね，そのサイトに飛ぶ必要があるんですが，その数は把握されていますか。

黄田観光政策課長
　県庁エリアのチームラボクリスタル花火でございますけれども，今委員長からお話がありましたように専用サイトにアクセスいただいて，お楽しみいただくという仕組みだったんですが，ちょっと専用サイトのアクセスカウンターっていうのが，実は設置されておりませんで，ちょっとそのアクセス数については，把握できてないという状況でございます。

岩佐委員長
　カウンターが設置されていないということで，数字が分からないというのも，そこの数字が出たらいいんですけど，単純に今回の35万人というのを10日間で割って，エリア四つで単純に割ったとして，１会場１日当たり9,000人という数になります。10日間で割るんで3万5,000人，１日あたり平たく割ってです。それを四つに割ったとしたら，9,000人ぐらい１会場にやってくる。夕方から10時くらいまでの４時間ということは，１時間当たり2,000人ぐらいの来場者がある。
　ということは，一つの会場に15分間居たとしても，その15分の間に500人から600人はそこに居なくてはいけないっていう計算になります。これは単純に割ってです。ですからピーク時であったりとかはこの数字より多いはずですし，少ないときっていうのは当然あるわけですが，例えば藍場浜公園とかだったらあれですけれど，県庁前に500人，600人が15分間居たという計算になるんですけれども，100人ぐらいがスマートフォンでやったら花火は上がるっていう話だったんですけれども，そういう意味でも，実数とこの推測さ

れた数っていうのが，違うんじゃないかという疑念を持たざるを得ないような数字になってきます。

この35万人っていう推計は，朝から話があるんですけど，やはり正式なというか，この観光庁のやり方に沿ってやっているので，これ自体は否定はできないと思うんですけども，やはりこの数字を丸々信用してしまうと，これからの観光行政には役に立たないものだというふうにも思っています。

もう一つちょっと確認をしたいのですが，先ほどちょっと長池委員の話の中からも出てきたんですけれども，そもそもこのとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの目的というのは，基本方針とか出てきているのですけれども，どういうものになりますか。

黄田観光政策課長

とくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの関係でございますけれど，一応，目的につきましては四つの方針を掲げておりまして，ＬＥＤにデジタルアートと融合することによってレベルアップを図って新たな文化の創造と，それから実施エリアを今回広げましたので，それでそれぞれエリアの特性を持たせて，周遊性を向上させる。国内外の広報発信に務めまして，冬期の観光誘客にぎわい促進を図る。それから，子供たちが先端技術に触れる機会を創出することによりまして，若い世代を中心に科学事案の興味を醸成するという形で，掲げさせていただきまして，実施をしていくという形でございます。

岩佐委員長

基本的には，にぎわいづくりであったり，子供たちに興味を持ってもらうっていうことだったんですけども，先ほどの長池委員の話にもあったんですけど，基本的には，そのＬＥＤバレイ構想というのがあって，やはり優位性というものを生かしていくべきものというのがベースにあって，にぎわいにもつなげていくということなんだろうと思うんですけれど，そういう点においては，にぎわいに関してもまだまだなところもあると思うし，例えば，地元企業の振興，例えばＬＥＤであったり，デジタル関係，コンテンツの振興については今回のこのイベントというのが余りつながっていないんじゃないかなと，個人的には思います。

予算の関係も若干触れさせてもらったら，今回当初予算にも出てくるんですけど，「藍×ＬＥＤ」ブルーとくしま創生事業については2,200万円，これは他の分野もあるとは思うんですけど，お試し発注については900万円という予算が付いていますが，例えば今回のこのＬＥＤも，先ほど話もあった140社も関連企業があるのであれば，そういう所の例えば商品を展示するとか，地元のＬＥＤ関連の企業を知ってもらう場所というのも必要なんじゃないかなと，地元の子供たちにも関心を持ってもらって，地元にこんな企業もあるんやなというのを知ってもらうことも必要だと思います。例えば900万円でお試し発注なんですけども，もっと地元の企業が作ったものを県のほうが買い入れて，支援していくっていう方法もあるというふうに思うので，やっぱりそこらの県税の使い方っていうのもこれからの課題になると思います。

それは一意見なんですが，にぎわいを創っていくっていうことは難しいと思います。オープンのときに台湾のブロガーさんが来て，海外にも発信をしてくれるっていうことも

あったんですけども，毎年この時期にやってますよって，これぐらいの規模で，ここでこんなきれいな景色が見えますよというのは，やっぱり１年ではできないと思います。先ほどのマラソンのことにしても10年も続いてきたから，例えば段々大きくなっていく話だから，１年でどうこうという評価っていうのは，難しいとは思うんですけれども，にぎわいを創っていく部分と地元の企業を育てていく部分，両方なければ，はっきりとは言いませんけども，こういうにぎわいの持っていき方，観光施策の在り方っていうのは，しっかりと見直さなければいけないのかなとも思います。

さきにも言ったんですけれど，６月定例会にまず内容が出てないのに，予算だけ認めてくださいという形で出てきた不透明さもあると思うんですけども，しっかりと計画を立ててにぎわいづくりなり，企業を支援していかなきゃいけないと思うんですけども，今回のこの成果を踏まえて，それをどのように判断して，今後どうされるのか御答弁を頂きたいなというふうに思います。

朝日商工労働観光部長

岩佐委員長からとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバルの件につきまして，御質問いただいております。

今，御質問がございましたように，この事業につきましては，もともとはＬＥＤバレイ構想の中で，徳島のブランド化というところから始まったということもございまして，位置付けとしては，そういうことで考えてきたところでございます。その中では，ワークショップなどにも努力をしてきたところでございます。

ただ今回議会の皆様から，様々な御意見を頂いておるところでございます。今回アンケートも採っておりますので，御来場された皆様方，御協力を頂いた方々，たくさんの方から頂きました御意見なども踏まえまして，今後実行委員会でとくしまＬＥＤ・デジタルアートフェスティバル自身の成果や課題については，十分検証してまいりたいと考えております。それを検証した上で，今後の在り方，議会の御論議も踏まえまして，在り方については十分検討していきたいというふうに考えております。どうかよろしくお願いを申し上げます。

岩佐委員長

ありがとうございます。今回の結果というのをしっかりと集計なり，まとめていただいて，まず報告をしていただけなければ，こちらとしてもチェックができないという部分もあるし，次というのがどういうふうにあるべきという判断もしかねると思うので，その辺の最後のまとめというのをしっかりとしていただきたいと，お願いを申し上げまして終わりたいと思います。

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは，これをもって質疑を終わります。

それでは，これより採決に入ります。

お諮りいたします。

ただいま審査いたしました商工労働観光部関係の付託議案は，原案のとおり可決すべき

ものと決定することに御異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
御異議なしと認めます。
よって，商工労働観光部関係の付託議案は，原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】
原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）
議案第１号，議案第４号，議案第８号，議案第９号，議案第15号，議案第51号，
議案第75号，議案第78号，議案第80号，議案第81号

以上で，商工労働観光部関係の審査を終わります。
本年度最後の委員会でございますので，一言御挨拶を申し上げます。
商工労働観光部関係の審査に当たり，理事者各位におかれましては，常に真摯な態度をもって審査に御協力いただき，深く感謝の意を表する次第でございます。
また，審査の過程において表明されました委員の意見並びに要望等を十分尊重していただきますようお願い申し上げます。委員会審議における透明性の確保であったり，事業効果のチェックをしっかりしていただいて，それをフィードバックすることで今後の商工労働観光行政の推進に反映されますよう強く要望させていただきます。
終わりに当たりまして，皆様方には，ますます御自愛いただきまして，それぞれの場で今後とも県勢発展のため御活躍されますようお願いを申し上げまして，私の挨拶とさせていただきます。
どうもありがとうございました。

朝日商工労働観光部長
一言，お礼を申し上げます。
この１年間，岩佐委員長様，来代副委員長様をはじめ，各委員の皆様方には，商工労働観光行政につきまして，御審議を賜りますとともに，貴重な御助言，御指導を頂き，厚くお礼を申し上げます。
私ども商工労働観光部では，これまで皆様方から頂きました御助言，御指導を肝に銘じまして，本県経済の持続的な成長・発展と，地方創生を実感できる徳島経済の実現に向け，職員一丸となり，積極的に施策を推進してまいる所存でございます。
今後とも，御指導，ごべんたつを賜りますようよろしくお願い申し上げます。
簡単ではございますが，お礼の言葉とさせていただきます。
１年間，本当にありがとうございました。

岩佐委員長
これをもって，本日の経済委員会を閉会いたします。（14時32分）